

THE MONTHLY REPORT

OF

SEITO JITSUGYO KIOKWAI.

OCTBER, 1920 No. 33.

大 正 九 年 十 月

青 島 實 業 協 會

月 報

第 三 拾 參 號

大正七年八月十九日第三種郵便物認可 (每月一回二十日發行)
大正九年十月二十日發行

△本號要目▽

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| 經 | 倫 | 法 | 協 | 商 | 海 | 貿 | 支 |
| 濟 | 敦 | | 會 | | 運 | | 那 |
| 統 | 銀 | | 錄 | | 及 | | の |
| 計 | 塊 | | | | 鐵 | | 石 |
| | 相 | | | | 道 | | 炭 |
| | 場 | 規 | 事 | 況 | 易 | 題 | |

▽青島實業協會月報 第參拾參號 目次△

内外經濟問題

△支那に於ける企業の趨勢……………一

支那の石炭

△章邱炭田……………七

貿易

△支那重要輸出入貿易(大正八年)……………一九

△青島貿易近況(七月)……………二五

△主要輸出入貨物情勢(八月)……………二六

△民船貿易(八月)……………二七

海運及鐵道

△青島港出入船舶(七月)……………二八

△內地近海運賃擡頭……………二八

△三驛發著主要貨物概況(八月)……………二八

△山東鐵道上半期輸送狀況……………二九

商況 (九月)

□綿糸布 □砂糖 □燐寸 □白米 □木材 □花生油
□花生實 □原鹽 □桐材 □鷄卵 □石炭

協會錄事

△九月分定例總會……………三五

△飯塚會頭送別會……………三六

△濱丈夫氏送別會……………三七

附屬運動部彙報

△八阪かつぶ試合……………三八

△中村かつぶ試合……………三八

△太田優勝旗試合……………三八

法規

△錢鈔現物取引規程……………三八

倫敦銀塊相場

△大正九年九月中表示……………三九

寄贈書類目錄

△大正九年九月到着の分……………三九

青島實業協會月報 第參拾參號

支那に於ける企業の趨勢

銀行週報社發行銀行週報第百五十五號所載「吾國公司事業の趨勢」は民國七、八兩年中農商部に登錄せる新設會社（新設會社中登錄せざるものも小ながらざる模様なり）により同年中支那に於て各種會社事業一般の趨勢を記述せるものにして支那に於ける企業の趨勢に關し多少參考とすへき點あるにより其大要を左に譯出すべし

民國七年中新設會社數計八十四其資本總額五千三百五十六萬六千九百八十五元同八年中新設會社數計九十三其資本總額三千三百五十六萬七百元にして兩年度合計新設會社百七十七其資本總額八千七百七十二萬七千六百八十五元なり之を一九一九年英國に於ける新設會社資本總額二億三千七百六十八萬八千七百八十磅及日本の四十億六千八百萬圓に比すれば尙壞の差あり且各種會社の平均資本額五十萬元に及ばず以て資本の薄弱なるを知るに足るべし

民國七、八兩年中各省新設の會社は其數を以てすれば江蘇を最多となし計五十四を算す但し資本額を以てすれば首に直隸を推す蓋し此二年中直隸の鑛業及商業等經營の新設會社は其數各省の首位に居り資本額亦最多の省たり唯電氣業等は此二年中直隸に於て新設せられたるものなし

七、八兩年中各省新設の會社數及資本額を表示すれば左の如し

省名	新設會社數	資本總額
直隸	三二	四四、五八四、〇〇〇元

省名	新設會社數	資本總額
江蘇	五三	一七、五六六、六〇〇
吉林	一三	一四、〇〇六、〇〇〇
山東	一四	四、四四二、〇〇〇
黑龍江	一	三、二〇〇、〇〇〇
湖南	三	一、七六〇、〇〇〇
浙江	一九	一、五〇九、六〇〇
江西	六	一、三八〇、〇〇〇
湖北	七	八九二、〇〇〇
湖南	五	八六〇、〇〇〇
山西	四	四六九、〇〇〇
奉天	三	四〇〇、〇〇〇
福建	六	三七三、〇〇〇
安徽	四	二七五、〇〇〇
四川	一	一二〇、〇〇〇
察哈爾	一	一一七、七八五
香港	一	一〇〇、〇〇〇
熱河	一	五〇〇、〇〇〇
貴州	一	四〇〇、〇〇〇
陝西	一	二〇〇、〇〇〇

前記各會社中製造業に従事するものを以て最多とし其資本額殆ど各種事業資本總額の四分の一を占む是亦支那製造工業發達の兆ならんか之に次ぐを金融業及商業となす金融業新設會社を見るに其數十資本總額千三百八十五萬千元にして毎會社の資本平均僅に百數十萬元（資本額）なり此製造工業及商業發達の時に當り此小資本を以てしては恐らく充分に其融通資金の效能を發揮するに足らざるべし其他鑛業及紡績等の此兩年中相當に發展

せり今各種會社を事業別に列擧すれば左の如し

種類別	會社數	資本總額
製造業	五三	二一、七二一・三〇〇元
金融業	一〇	一三、八五一・〇〇〇
商業	一五	一三、三七三・〇〇〇
鑛業	一二	九、四七二・七八九
農業	一六	八、五二九・〇〇〇
交通業	一八	六、八六六・〇〇〇
紡績業	一六	六、六七三・六〇〇
電氣業	二六	三、一二三・〇〇〇
雜業	八	二、四六三・〇〇〇
漁業	三	一、〇五一・〇〇〇

前記各種事業中重要なるものに就き左に説述すべし

製造業 數年來各國とも食糧の缺乏を來し支那の麥粉其他を輸出し其不足を補へりされば民國八年中麥粉の輸出は二百六十九萬四千擔の巨額に達し支那國內製粉業の興隆を致せり七、八兩年中製粉會社の新設せられたるもの十社資本總額五百八十萬元に達せり燐寸製造業等の新設會社亦少からず煙草業の新設會社三資本總額五百三十餘萬元に達せり然れども材料豊富なる皮革の會社の新設せられたるもの甚だ少し新設會社最も多く且資本總額最も巨額に上れる省は江蘇を以て首とす蓋し江蘇は素と製造工業最も發達せる地區なり其他吉林黑龍江省等は森林事業等の發達を以て又新設會社あり今種類別により新設會社の數及資本額を示せば左の如し

種類別	會社數	資本總額
麵粉	一〇	五、八〇〇・〇〇〇元

省別	煙草	燐寸	木材	皮革	紙製品	其他
吉林	三	八	二	一	一	二
直隸	一〇	一	一	一	一	一
黑龍江	一	一	一	一	一	一
山東	五	一	一	一	一	一
河南	四	一	一	一	一	一
湖北	三	一	一	一	一	一
奉天	一	一	一	一	一	一
浙江	三	一	一	一	一	一
安徽	二	一	一	一	一	一
福建	一	一	一	一	一	一
江西	二	一	一	一	一	一
陝西	一	一	一	一	一	一

前記其他の項中には染料、雜貨、製藥、曹達、樟腦、齒磨粉、榨油、毛筆製造、製氷等の各種事業を含み其中資本の最小なるものは僅に二千元にして最も大なるもの一、二十萬元に過ぎざるなり

商業 商業會社の新設せられたるもの直隸、江蘇に各六社あり但し江蘇の資本總額は直隸の四分の一に及ばず且又吉林省よりも少し江蘇に於ける新設會社を見るに其資本額平均僅に五萬餘元のみ而して直隸各新設會社の平均資本額は二百餘萬元に達

す其差大なりと謂つべし事業の種類を以て之を觀れば棉花、綿布賣買及債券應募等に其數比較的多しと雖其資本額を以てすれば貿易を經營するもの、巨額なるに遠く及ばず蓋し貿易經營會社は其平均資本額五百萬元に達し而して棉花綿布賣買會社は一萬餘元に過ぎざるなり證券賣買を業務とする新設會社亦一あり其資本額五十萬元とす事業別及省別に會社數及資本額を示せば左の如し

種類別	會社數	資 本 額
貿易	二	一〇、五〇〇、〇〇〇元
資金融通 債券應募及調查代辦等	五	四、二〇〇、〇〇〇
證券賣買	一	五〇〇、〇〇〇
農作物の運輸及賣買	一	一〇〇、〇〇〇
棉花綿布賣買	四	六三〇、〇〇〇
圖書賣買	一	一〇〇、〇〇〇

省 別

直 隸	六	一四、九〇〇、〇〇〇
吉 林	一	五〇〇、〇〇〇
江 蘇	六	三六三、〇〇〇
湖 北	一	一〇〇、〇〇〇
陝 西	一	一〇〇、〇〇〇

●鑛業 支那は鑛産地に富むと雖採掘の業は未だ盛ならず年新設會社計十二あり其中石炭を採掘するもの最も多く計七あり其他鑛鐵、硝酸鹽等を採掘するもの各一あり銅、錫、等の採掘に至りては新設せられたるものなし七、八兩年中採鑛及精煉新設會社を見るに直隸を以て最多とし新設會社五あり然れども其公稱資本平均額は僅に百餘萬元なり若夫察哈爾の新設會社に

至りては其資本額十一萬七千餘元のみ種類別及省別に新設會社數及資本額を示せば左の如し

種類別	會社數	資 本 總 額
鐵鑛の採掘及精煉	一	五、〇〇〇、〇〇〇
石炭の採掘	七	二、六六七、七八五
鑛物の精煉	一	一、五〇〇、〇〇〇
採 鑛	二	三〇〇、〇〇〇
硝酸鹽の採掘	一	五〇〇、〇〇〇

省 別

直 隸	五	五、八〇〇、〇〇〇
湖 南	一	一、五〇〇、〇〇〇
江 蘇	三	一、〇五〇、〇〇〇
江 西	一	一、〇〇〇、〇〇〇
察 哈 爾	一	一七、七八五

●農業 支那は各地多く農業に適すと雖惜むらくは經營者の新知識を有するもの少く且其規模亦狹小なり故に製茶業等の如き

當に進歩を見ざるのみならず衰頹の象あり故に近年紡績業漸く盛なるを以て棉花の需要増加し棉花栽培會社事業日々發達す而して七八兩年中新設の棉花栽培會社唯一あり其資本金二百萬元に達するを以て大規模の經營となすに足るべし然れ共紡績業日に興盛に趨くのに當り棉花栽培の事業は之を急務とすべし北部諸省は盛に林産物を出すされば若し經營宜しきを得ば亦有利の事業に屬す七八兩年中新設の森林會社七あり其資本總額五百三十萬元に達す各種農業會社新設の數を以て云はゞ浙江を以て最多となす然れども其資本總額は遠く吉林直隸の多きに及ばず吉林の新設會社を見るに其數僅に二なりと雖其資本總額は五百

六十萬元に達し平均毎會社二百八十萬元となる此二年中新設せられたる會社の資本額にありては貿易經營の商業會社及鐵鑛採掘の會社を除けば當に此吉林の會社を推すべきなり種類別及省別に新設會社數及資本額を示せば左の如し

種類別	會社數	資本總額 元
森 林	七	五、三八八、〇〇〇
植 棉	一	二、〇〇〇、〇〇〇
水利、土木	三	七八四、〇〇〇
開 墾	一	二〇〇、〇〇〇
製 茶	一	一〇〇、〇〇〇
其 他	三	五七、〇〇〇
省 別		
吉 林	二	五、六〇〇、〇〇〇
直 隸	二	二、二〇〇、〇〇〇
安 徽	二	二、三〇〇、〇〇〇
山 西	二	一八〇、〇〇〇
浙 江	四	一五八、〇〇〇
江 西	一	一〇〇、〇〇〇
其 他	三	五七、〇〇〇
交通業		
七、八兩年中汽船運輸會社の新設せられたるもの十二あり然れども其資本多からず合計六百萬元に過ぎず自動車運輸及荷馬車會社亦新設せられたるものあり即ち左の如し		
汽船運輸	一二	六、〇三九、〇〇〇
運送及倉庫	二	五一四、〇〇〇
會社數		資本總額 元

自働車運輸 二 二二〇、〇〇〇
荷 馬 車 二 一三、〇〇〇
紡績業 近年紡績業日に發達し就中江蘇省を以て第一となす七、八兩年中紡績及織布會社の新設せられたるもの十社其資本總額六百十萬元に達す絲織物及肌衣製織業亦新設會社あり然れども其數多からず即ち左の如し

紡績及織布 一〇 六、一〇〇、〇〇〇
糸 織 物 二 三四〇、〇〇〇
肌 衣 三 二二〇、〇〇〇
其 他 一 三、六〇〇
電氣業 七、八兩年中電氣業新會社の増設は山東吉林浙江を以て最多となす江蘇は數年來設立既に多きを以て新設會社は僅に三あるのみ會社の種類に就て之を言へば電燈を經營するもの最も多く新設會社十七を數へ資本總額二百七十萬元に達せり電話其他電氣事業は比較的少し事業別及省別に會社數及資本額を示せば左の如し

種類別	會社數	資本總額 元
電 燈	一七	二、七一九、四〇〇
電 話	七	一八三、六〇〇
其他電氣事業	二	二二〇、〇〇〇
省 別		
山 東	五	一、〇〇〇、〇〇〇
吉 林	一	五〇〇、〇〇〇
浙 江	七	三四三、六〇〇
江 蘇	三	三四〇、〇〇〇

湖	一	二五〇〇〇〇
奉	二	二二〇〇〇〇
天		四四〇〇〇〇
其	五	

民國七、八年中新設會社の趨勢は上述の如しと雖由來支那は統計調査の機關を缺き殊に兩廣及雲南は國政未だ統一せず從て其統計資料を得る能はず其記述不完全を免れずと雖又以て大勢を察するに足るべし(上海山崎總領事報告)

山東省に於ける道路河川改良計畫

山東省長屈映光は山東省に於ける四千哩の自働車道路及び小清河の浚渫を目論んだが恐らく支那に於て尤も卓見なる然かも大膽なる計畫と考へらる米國バーゲー大學土木科出身にして現在齊魯大學の一教授は河川道路課長に任命され今二班の測量員を督し濟南及び其附近の道路測量に従事して居る此の計畫が豫定通り實現さるれば山東省の經濟的發達に非常なる變更を來すことなる地方重要都市は自働車運轉幹路により連絡し非常なる交通の便利を見るに至る現在にては地方重要都市例へば芝罘の如きは跛足的經濟狀態にあるそれは即ち適當なる交通機關を缺いて居るからである自働車運轉計畫及小清河の改修は單に重要都市の連絡交通を便にするのみならず山東省に於ける日本の經濟的勢力を挫くに力がある日本は山東省東半部に於て鐵道を專有してをるから支那が豫定計畫の煙灘鐵道を敷設するにしても其鐵道及芝罘は日本の勢力の下に捲き込まれるだらう屈氏の計畫の自働車道路は海港を起點としてをる即ち龍口、芝罘、海陽の三地點より津浦線に連絡する様自働車運轉を實施せば山東省半部に於ける支那商人製造業者礦山主等の間に於て日本は最早

經濟的侵蝕を逞うし得ざること甚だ明瞭である

河川 改修

自働車路建設より一層緊要なることは小清河の改修である屈氏曰く山東鐵道敷設以來小清河沿岸の物資輸送は小清河と鐵道と競争の狀を呈したそれ故小清河を川蒸汽が運行する様改修することは目下急務である

一九一四年遠東時報誌上に於てレイ氏が以上の計畫を主張し日本は山東侵略を驅逐せんとしたが省長は此の計畫に同意しその結果左の如き成案を得るに至つたのである

一、全省の交通機關は鐵道、河川、貿易港、漁港重要生産地軍事上要地を自働車道路により連絡せしめ最初に自働車路の幹路及支路地點を測量調査すること

二、山東鐵道及津浦鐵道は濟南の東部南部西北部地方の交通に便なるが濟南の西部東昌臨清曹州北方武定東南臨沂及び北部沿岸登萊龍口黃縣の諸地は鐵道河川より遠隔の地にあり中には濟南より數日或は十數日の旅程を要する遠隔の地あり隨て行政商業工業の發達は遅々たるものである此等のことは最も重要なことで幹路及支路の決定に當り上記の地方は起點として考ふべき所である

三、幹路の豫定計畫

- イ 龍口灘縣幹路(龍口、黃山館、朱橋掖縣、沙河、昌邑、灘縣)
- ロ 芝罘灘縣幹路(芝罘、福山、棲霞、萊陽、平度、昌邑、灘縣)
- ハ 灘縣嶧縣幹路(灘縣、安邱、諸城、莒縣、臨沂、嶧縣)
- ニ 泰安臨沂幹路(泰安、新泰、蒙陰、臨沂)
- ホ 曹縣濟寧幹路(荷澤、定陶、城武、金鄉、戴家、濟寧)
- ヘ 平原濟寧幹路(平原、恩縣、高唐、茌平、博平、東昌、濟寧)

ト 昌邑平原幹路(昌邑、壽光、廣饒、博興、高苑、青城、商河、臨邑、平原)

三、支那豫定計畫

上記の幹路より分岐する支路

イ 龍口濰縣幹路黃山館より分岐して招遠に至る

ロ 芝罘濰縣幹路萊陽より分岐して海陽威海衛文登に至る

ハ 濰縣嶧縣幹路莒州より分岐して

A 沂水に至る

B 日照石臼所に至る

二 曹縣濟寧幹路曹縣より分岐して

A 城武に至る

B 魚臺金郷に至る

C 鉅野縣鄆城縣濮縣に至る

以上の幹路及支路は四千里の長里數に達する故先づ地の經濟狀態軍要地とを慎重考査し官營民營合辦すべき幹路を夫々決定し其計畫を進歩すべきである

幹路及支路建設地

一、膠東地方は人口稠密にして物資豊富なる沿海地方にあり軍事上の要地にて加ふるに前に煙濰鐵道の計畫なごありしを以て此の地方に二幹路を建設する必要あり

二、曹縣幹路地方は濟南の西南部に位し安徽省河南省に境し交通上軍事上重要地なるを以て幹路の外數多の支路を建設する必要を見る

三、前に本省にて計畫せる膠嶧鐵道は沙汰止となつたそれは獨逸が南方地方に利權を得んため鐵道を敷設し膠嶧地方と青島とを連絡せしむる計畫があつたからである現在青島問題は未

だ解決せず其の地方は外國の勢力の下にあるを以て一方其の勢力を挫き他方山東鐵道の獨占を禦ぐため臨沂地方を膠東に於る二幹路に連絡する計畫である

四、煙濰鐵道を敷設し山東鐵道と連絡することは今迄二回程計畫され今又煙濰鐵道を延長し津浦線の德州に聯絡せしめん計と畫し居るが斯くの如き計畫は費用莫大にして到底實現の望ないる此故此等の地を臨邑幹路と連絡せしめたる方優つて居るの幹路によれば經濟上軍事上重要地を占め得ることとなる行政上名づけたる現在の道或は府は眞地方の行政經濟の中心地なるを以て此の自働車運轉計畫も此等地方都邑の連絡を主眼として幹路を設く

六、支那の舊官道に沿ひ幹路建設すれば工事容易にして時日費用とを省き得るが若し舊官道が遠距離にある場合或は適當なる道路なき場合は新に幹路を建設せざるべからず其結果當然幹路測量後に於て賣地問題が惹起するであらう

七、總ての支路は幹路と連絡せざるべからず幹路と連絡する望なき支路を設けんとするときは鐵道或は河川連絡あるを要する

八、幹路支路は總て重要地なるを以て測量建設の上に於て當局は差別的の許可をなすべきものでない官營民營合辦の經營の中で民營に屬する部分は尤も重要なり官營の方針は行政上の見地から地方衙門の所在地或は軍事上重要地を第一に選び幹路を設け民營は商業般盛の地或は物資豊富なる地を第一に選ぶ結果商業上の見地から幹路建設の手を當局に歎願するに至るだらう若し斯くの如き歎願ありたる場合は當局は單に從來の道路ある理由を以て拒絶すべきものにあらす

九、以上自働車幹路支路の外特殊の關係有をする濟南濰口間及濟寧曹州間の道路は最近商人側より道路改良を歎願したが速かに改良すべきものなり博山輕便鐵道とか臨沂より江蘇省徐州に至る道路東臨より河南省彰德府に至る道路曹州或は濟寧より河南省衛輝に至る此等の諸道は其計畫をたて改良すべきものである

十、以上の計畫は皆自働車運轉道路なるが若し商人が資本を募集し自働車運轉に換へ鐵道を建設せんとするときは建設可能力を實證せざるべからず輕便鐵道敷設の歎願をなしたる時にも自働車運轉道路は建設せらるべきものなり何となれば輕便鐵道は單に貨物運搬用に過ぎずして軍隊輸送及旅行用に適せざるからである

十一、幹路支路の外農業上重要な里道があるが此の種の道路建設は地方會議に依りその長官の意圖に依るものにして勿論農業の發展を目的としてをるから自働車運轉道路中には含まざるものなり

十二、此の自働車計畫は全省各地の交通機關の普及を圖る目的なるが若し或る地方にして此の恩澤を受けざる地方は測量調査の未だ不備なるに歸すべきものである

河川運河の改修

黃河及大運河は河川課の監督の下にあるを以て別問題として其餘の全省に於ける河川の改修計畫が立案された第一に小清河で水源を濟南府に發し東流すること四百里羊角溝に於て渤海灣に注ぎその流域には十數ヶ村の部落あり山東鐵道開通以來此の地方の物資輸送は河川と鐵道と競争をなすに至つたそれ故此の河を改修し蒸汽船を航行せしむることは焦眉の急

務である小清河の南岸には白雲湖麻大湖鳥河孝婦河等北岸には支脉溝あり此等は皆水を湛る或は沼地をなしをるを以て一旦齊東章邱地方に氾濫せば數千「エーカー」の土地は幾何の收獲なきに至る博興地方に於ては支脉溝は絶えず堤防を越え氾濫してをる又曹溝家の汎濫を禦ぐため堤防を築きたるが修理の完からざるため四十里の地は絶えず氾濫してをる有様である小清河及其の支流の河底を一層浚渫し多くの堤防を築かば洪水期に際し氾濫を禦ぐばかりでなく旱魃の時は水を供給し得るに至る

運河改修

一、小清河は省内に於て尤も重要な河なるを以て省議會に於ては改修を速行することに決議した河川湖沼課は測量を了し計畫圖面及報告を出すに至つたから愈工事に着手するに至るであらう

二、大運河は豪雨のときは容易に氾濫し德縣及其地一帯に慘害を及ぼすに至る省の河川湖沼課に於ては此の事に關しては考量をめぐらして居たるが其の計畫は進歩せず往昔今日に至つたのである

最近道路課と河川湖沼課と會議し此の運河改修に就き打合をなし水害防止法を講ずるに至つた山東省に於ける海川は非常に多く一々枚舉に遑あらざるが泗水大汶河沂河濰河引河等その主なるものである以上の諸河は商業上餘り重要ならざるを以て數年間改修せられず堤防も破壊してをるを以て假令改修計畫を立つるも非常に困難なる事業である

支那の石炭

章邱炭田

○位置及交通

博淄炭田を孝婦河流域に辭し膠濟鐵道を幹線に沿ひ西漸する時は王村驛附近及明水驛の南方に有名なる邱山を介して約東西に夾炭層の分布あり此に所謂章邱炭田とは此二者を總稱せるものにして前者は王村鎮の南々西約八支里孟家院張家莊附近に在り蓋し博淄煤田を爲せる夾炭層が孝婦河の流域を出で、山裾を迂曲して茲に連亘せるものなりと云へり現時此地には二坑の土法小井稼行者あり後者は明水驛の南約二十五支里文祖鎮黃海及埠村地方に散在せる新舊坑口の所在として目下許可を得て採掘開坑せるは文祖鎮に於ける土法大井五坑及土法小井三坑の八坑にして一日平均四五十噸の出炭あり

本炭坑は東南方は遠く博山炭田に連り南西は萊蕪炭田に接し東方遙かに談家莊炭田及孝婦河を距て、淄川炭田に連り廣袤東西約十五六哩南北六七哩其面積約九千萬坪にして其採掘は約四十年前より行はれたるものなること其廢坑の狀況により之を知るべし此炭田の交通は頗る不便なる一寒村にして王村或は普集兩驛より馬又は小車により王村より鐵古山長紳地迄は山道にて道惡しく交通不便なり又湖山西方面の炭田は東南は山脈に周圍せられ南北は廣麥畑にして地勢は概ね平坦なるも埠村附近は凹凸甚だしく八拉河は水無く舟楫の便を缺ぐ此炭田の往來には明水或は棗園兩驛より馬匹又は小車に依り明水よりは湖山々麓を経て姚頭埠村に至る馬又は小車に依る明水及王村は共に鐵道上一

寒驛に過ぎざるも之より濟南府青島又博山支線の分岐點たる張店への距離左の如し

明水より	濟南府へ	張店へ	青島へ
王村より	五一基米	五九基米	三六一基米
	六九	四一	三四三

○地質炭層及炭質

煤田の地質構造は夾炭層に屬する石炭石灰岩を缺ぐ外概して博淄炭田に等しく始元代に屬する花崗質片麻岩は南遠く泰山連峯に認むる所にして支那層石灰岩一帯に發達し古生代石炭紀に屬する夾炭層は砂岩厚岩の互層より成り石灰岩層を覆へり又第四紀層は河川の流域及章邱附近の平地に分布せる夾炭層は三枚にして第一層は層厚四尺五寸にして二百尺内外にして著炭し第二層は四尺にして二百五六十尺にして著炭す第三層は炭層厚五尺にして二百七八十尺にして著炭すべし炭層は東北より西南に延長し約七八度の角度にて東南より西北に傾斜せり炭質は博淄煤田産に類似し半無煙炭に屬するも粉炭多く一般に劣等なり只其品質は炭坑によりて各異埠村山老坡崔産炭は品質良好坊子炭を除き其右に出づるものなし左に章邱炭各種の分析の結果を示す

成分	炭種	文祖鎮	上莊
水分		〇、四八	三、一六
固定炭素		五九、一六	五九、〇五
水素		三、七八	四、〇三
酸素		六、九七	一〇、五四
灰分		二八、一三	二一、六八
硫黃分		一、四八	一、五四
發熱量		六、一四	六、〇六

炭種	成分	水分	揮發分	固定炭素	灰分	硫黃分	灰質	膨脹性	結核性	灰色	同	同	同
章邱炭	〇四三	〇六九	六三六	八五五	七三九	二九二	同	同	同	同	同	同	同
鈴子炭	〇四三	〇六九	六三六	八五五	七三九	二九二	同	同	同	同	同	同	同
天尊院塊炭	〇四三	〇六九	六三六	八五五	七三九	二九二	同	同	同	同	同	同	同
同込炭	〇四三	〇六九	六三六	八五五	七三九	二九二	同	同	同	同	同	同	同

○採炭其他

採炭は専ら土法稼行にして大井小井の裝置全く博山炭坑に同じ只本炭坑に在りては湧水最も多く支那式採掘法として經費償はず博山炭の發達せるに本炭が常に其進路を遮らるゝ理由此に在り之が爲め從來採掘し來りたる炭層も直に廢坑に歸し近來蒸汽ウチンチを採用し牛皮袋にて揚水せし向あれど收支償はず頻々廢坑するに至れり通氣法も亦必ずしも良好ならず燈火は裸燈を用ゆ次に章邱炭坑の經營者は左の如し

炭坑經營者	位置	經理	資本
華興煤礦公司	天尊院	管象坤	十萬元
同益公司	長神地	孟惠民	
普興煤礦公司	鐵古山	燕厲辰	
天源煤礦公司	馬家林	蘇延驛	十萬元
泰豐公司	文祖鎮	王懷琪	

華興煤礦公司是民國二年の創立に係り天尊院炭礦を經營しつゝありしも湧水の爲め業を明水の礦區に移せしも是亦湧水の爲め廢坑の止むなきに至りしが天尊院鑛區に於ては其炭層二層厚さ各九尺にして上層の炭質不良なるに下層は稍良好なるも出水の爲め經費償はざるに至りしものにして礦夫三百名を有し土法稼

行井十一にして各井百九十呎乃至百二十六呎にして第一層に著炭せり一日の出炭高百噸内外なり
同益公司是民國六年の創立に係り王村より南方六哩の地に在る長神地鐵古山炭礦を經營し目下稼行中のもの小規模に過ぎざるも洋式稼行を採用しウチンチ一臺汽罐一臺を据付け現在既に二百五十尺に達し居り二百七十尺にして著炭し所謂大黃石炭を採掘するものにして新堅坑には捲揚機一臺を備へ二分間に排水約六立方呎岩石の採掘百十斤を捲揚げつゝあり

次に普興煤礦公司是三元莊の東南約十町の所にある馬家林にして明水驛よりは馬又は小車にて往復するを得民國六年の開坑にして第一層は百八十尺にして夾崗炭に著炭するを得層厚三尺乃至四尺にして炭質は概して不良なり採炭は洋井一土法一を有し洋井にはウチンチ汽罐一臺を備へて排水に従事せり土法に在ては馬匹六頭にて揚炭しつゝあるも排水多く困難なり

次に天源煤礦公司是埠村より南方一哩の地鎮山老坡崖にして民國四年の創立に係り資本金は十萬元舊式土法により採掘しつゝありしも其後洋式に改めたり炭層は五層にして各四尺現在稼行のものは第一層にて坑深百呎にして著炭するも湧水多く現在の設備を以てしては第二層以下の稼行困難なり本炭質は最も優良なれども資金乏しきが故に擴張し得ず一日の出炭高平均一日六十噸位なるべし

泰豐公司是明水驛の南十二哩の文祖鎮を經營し驛よりは馬又は小車にて往來す民國七年の始め開坑せしものにて比較的大規模の計畫にて章邱炭坑の湧水多きに鑑み専用排水ポンプを据付け汽罐五臺を設置する豫定にて坑井は南北二あり何れも掘進中なるを以て未だ出炭を見るに至らず

其他章邱炭鑛に在ては昨年邦人側に於て其採掘の出願中にして其後許可を得て日支合辦の形式にて經營せる模様なるも之が詳細に就ては追て記述する事とすべし

次に産炭及販路等に就ては當坑に在ては前記の如く排水費に多くを費し山元値段二元五十仙乃至三元にして販出は附近の需要を主とし僅少は濟南府に出づ上海に於ける倉渡値段は十二元四五十仙にして即運賃諸掛左の如し

山元値段	二元六十仙
山鐵明水驛迄運賃	一元六十六仙
同驛より青島迄	三 元
諸掛り	十 五 仙
青島港船渡値段	七元四十一仙
青島より上海迄の運賃	五元九十五仙
積換諸掛り	九 十 仙
上海倉渡値段	十四元二十六仙

新泰炭坑

●●●●●●●●●● ○位置及交通

此に所謂新泰炭坑とは萊蕪新泰兩縣の中間を約東西に横はれる蓮花山嶺により二分せられ略ぼ南北に汶河及小汶河の流域に分布せる含炭層にして北部のものは萊蕪縣下に屬し縣城の東々南約三十支里濶莊附近の平地に在り從來萊蕪炭田として識られ屢採掘を試みたりしも炭層薄くして急斜せるが上に湧水多量何れも效果の見るべきものなく現に二三の土法稼行あるに過ぎず南部即ち小汶河流域のものは新泰縣城の西北十五支里蔡家莊附近及西南十五支里汶南附近に在るものにして所謂新泰炭田の稱あり

りて曾て土人に依り採掘を試みられたる事あるも經濟的價值少く現時休止せり新泰炭田とは此兩區を一括せる名稱なり本炭田の交通の便否は萊蕪縣は汶河の上流に小都市を成し博山縣又は青州府に通ずる街道に當り西約一百支里泰安府に於て津浦鐵道に通ずべく北約八十支里にして膠濟鐵道博山支線の終點博山に達すべし新泰縣は小汶河の上流にして沂洲泰安街道上沂洲府より約二百支里泰安府より百二十支里に在りて來往頻繁なり

●●●●●●●●●● ○地質炭層及炭質

本炭田の地質を構成せる地質は片麻岩紀層、支那層、石炭紀層新泰層、第三紀層火成岩類等より成り夾炭層は黑色及綠色の砂岩黃岩の互層より成り瀝青石灰岩及石炭層を夾在し所々火山岩に犯さる北濶莊附近、南蔡家莊以南地方に濟南石灰岩を不整合的に覆ひ西南に三十度乃至四十度傾斜せり

夾炭層が介在せる炭層にして既に知られたるもの一尺或は二尺のもの三枚にして其質博山炭に比し遙かに劣等なるも骸炭分に富み斷口は片狀を呈し粉末し易く僅かに光澤を有せり炭質に就ては左記分析表によりて之を知るべし

炭 種		成 分	
		汶 南 炭	大 協 炭
水 分	揮 發 分	一、八八六	一、七四四
骸 炭 分	骸 炭 分	三二、六五四	三七、三八六
骸炭性狀	膨脹粘結性	六六、四六〇	六〇、八七〇
灰 分	粘 結 性	五、三三	一、九八
灰 色 相		灰 白 色	淡小豆色

全硫黃 一、八〇三
比 重 一、三一六
發熱量 七、二〇五
採炭販路其他 七、五九〇

○採炭販路其他
採炭法は土法にして専ら鑿坑に依る事博山炭坑と等しく深きは一百尺内外に達し坑内行水多く燈火は多くカンテラを使用す既に稼行せるものは二三の小井にして十數噸の出炭あるのみなり而して之が販路に就ては產出僅少なを以て附近の需要を満すにも足らず反つて博山炭の入荷あり

嶧縣炭坑

○概況

西部山東省の南區地方の骨格をなせる山地は西南曲阜縣附近に起り昌平山、青蓮山、牛山、君山等の諸山峰を連ね蜿蜒として江蘇省の境域大運河の流域に伏す此連山が平地に臨まんとせる地方蘭山縣の東沂洲府及西嶧縣附近に約一百餘支里を距て、分布せるもの即ち沂洲炭田及嶧縣炭田の兩炭坑を包擁し嶧縣炭坑とは以上兩者を總稱する所謂沂嶧炭田の西部嶧縣棗兒莊附近に分布せるものにして其經營は中興煤礦公司及廣益煤礦公司の二者にして中興煤礦公司是炭田の主要部を占め棗兒莊附近に洋式採掘を爲し居れり

○位置及交通

津浦鐵道幹線を天津より三百七十餘哩江蘇山東兩省の境界近く臨城驛に辭し此處にて炭坑支線により約六十支里を東する時に終點棗兒莊驛に達し其北西一帶には支那人の所謂平頂山東西に連り特長ある地形を示し南方百米突内外の連邱遙に包圍して低

地を成し大小汶河の流域西に南に之を分ちて起伏波狀を呈せるを見る此に嶧縣炭坑は此波狀低部の間に西南齊村附近より東北安城に至る二十餘支里南北三支里乃至七支里の間に擴延し其主要をなせる西半部は中興煤礦公司に屬し東半部は廣益公司のなり

棗兒莊は中興煤礦公司の所在西半部の中堅にして一小街衢を成し戸數百餘巡警分局郵便分局等あり中興煤礦公司是此地津浦鐵道炭坑支線終點より大沙河流域に沿ひ嶧縣を横ぎり南大運河々岸、臺兒莊埠頭に結べる約九十支里の炭坑鐵道を私設し専ら運炭の用に供せるが津浦鐵道同様標準軌道にして旅客をも兼ね扱へり該炭坑は元來荒僻の地にして宣統二年鐵道完成してより非常の好成績を擧ぐるに至れり機關車五輛一日三回往復にして一日三等往復切符賣上高三百五十を下らずと謂ふ棗兒莊より第一驛は嶧縣にして約三十五分を要し第二驛は泥溝第三驛は臺兒莊とし三十分にて達す而して臺兒莊には中興公司専門の炭船三十隻を有し全積載量一千噸にして若し不足の時は民船百餘隻あるを以て之を適宜應用し大船の積載量七十噸に及ぶものあり臺兒莊より各地に至る水路里程數左の如し

韓 莊	八十四支里	二日行程
徐 洲	百五十支里	三日行程
清 江 浦	三百六十支里	五日行程
鎮 江	七百五十支里	十日行程

而して津浦支線完成以來臺兒莊よりする運炭販路は減少し主として津浦支線を利用するに至り此支線による出炭販路及數量大に増加するに至れり之を以て民國三年來嶧韓間の專用鐵道敷設の計畫あるも未だ著手するに至らず今臨城より津浦線の主要驛

の距離哩數を舉ぐれば左哩の如し

天津	三三七哩〇二	濟南	一五六哩五三
浦々	二五四哩〇七	南京	二五四哩〇七

次に棗兒莊よりの距離は左の如し

臨城	一九哩一一	柳泉	四八哩九三
徐州	六二哩一八	浦口	二七三哩一八
濟南	一七五哩六四	德州	二四七哩九四
天津	三九六哩一三	青島	四二九哩九二

○沿革

本炭坑は遠く五百餘年前元朝に於て開掘せられたるものなりとの傳説は略一致する所なるも漠として據る所なく爾來多少の採掘は絶ゆる事なかりしならんも約四十年前光緒五年前後は棗兒莊を中心として四近に支那式土法大窩の稼行相次で起りしも此時迄は鑛業に關し未だ地上地下の區別なく土地所有權者は即ち鑛業所有權者にして自ら鑛業を營ます希望者をして採掘せしめたりしなり

然るに前清光緒六年の時北洋大臣直隸總督李文忠は戴華藻をして二萬餘兩の合資組織にて嶧縣棗兒莊に中興煤鑛公司を新設し土法を以て石炭の採掘を開始せり其後資本を増加すると共に機械を購入し其發達を計らんとしつゝありしが光緒二十一年に至り時の山東巡撫李鑑堂の開採禁止の令により遂に停止するの歎むなきに至れり越つて光緒二十五年張毓藻復亦外資を借りて採掘を繼續する事となり北洋大臣直隸總督裕壽山と督辦直隸鑛務なる張燕謀と會同し張毓藻を總辦となす事に定め名を改めて華德中興煤鑛有限公司とし(資本金八十萬兩)光緒三十年に至り未だ獨逸より株金を交付し來らざるを以て山東巡撫周玉山は農

商部に申請して先づ支那側株金の募集を開始し農商部に登記して商律有限公司に辦理せり斯くて臺兒莊、棗兒莊間九十支里の運炭鐵道建設案を出願せり

是より先き光緒二十九年獨逸資金償還の議支那側に起りしが同三十一年に至り表面上獨逸との合辦を絶ち名を山東嶧縣中興煤鑛公司と改め濟南鹽運使たりし張運芬總理となり専ら經營する事となせしが宣統元年周學熙を派し鑛區調査及び整理辦法を講じ鑛區を三百七十七方支里と確定し從來八十萬兩の資本を三百萬兩に増加せり斯て株主總會に於て張を總理に戴理庵を協理に擧げ民國元年周立之、胡聖餘、朱昶初、姚星五、戴敬南を權理董事となせり同年九月濟南に特別株主總會を開き周朱、姚許君耆任蓬辛、呂同輔、鄭翔北の七人を董事とし周白洪、葉揆初を監查役に選定し張毓華を正經理に戴理庵胡、聖餘の二人を副經理とせり

以上に同公司の組織は正經理一名副經理二名を二百株の株主中より選舉し董事は之を補佐し百株の株主中より選舉す次に技師長は外人にして主權は經理によりて支配さる又鑛縣辦事を分ちて

經理辦公處 採掘事務及外部の交渉事務にして工務處庶務處

大櫃錢房の四部とす

礦務辦公處 測量及び技術方法を辦理す

而して當時の擴張計畫の綱領左の如し

第一期擴張計畫宣統二年新株百五十萬兩を募集し舊株八十萬兩と合して二百三十萬兩となす而して新株百五十萬兩の費途は

一、本坑作業費機械購入費 三十萬兩

一、第一分坑同費 二十萬兩

一、棗兒莊臺兒莊間鐵道敷設費

二十萬兩

一、舊負債の償還

八十萬兩

右擴張計畫完成したる曉に於ける豫想は一日の出炭高五百噸にして一ヶ年石炭賣上高利益十五萬兩鐵道收益八萬兩計二十三萬兩を收め之を官資の元利に充當す

第二期擴張計畫 宣統三年更に新株七十萬株を募集し豫定の三百萬兩となす新株七十萬兩の費途左の如し

一、本坑機械据付及新坑改鑿費

十五萬兩

一、第一分坑新坑開鑿及機械購入費

四十萬兩

一、鐵道貨車及機關車購入費

十五萬兩

此竣工豫想は出炭一日一千噸にして賣炭利益二十五萬兩鐵道益銀十萬兩計三十五萬兩は官資元利償却に充て尙五萬兩を除す

第三期擴張計畫 民國元年は前年の擴張計畫を繼承し其出炭豫想高は本坑分坑を併せて一日一千五百噸にして賣炭利益三十萬兩鐵道益銀十五萬兩計四十五萬兩の内官資元利三十萬兩を支拂

ひ殘額十五萬兩を純益金とす

第四期擴張計畫 民國二年には擴張計畫の一切の設備を完成し豫想出炭一日二千噸にして賣炭利益四十五萬兩鐵道收益二十萬兩計六十五萬兩を官資の元利償却に充て殘餘三十五萬兩を純益

とす

而して事實に於て革命動亂は此計畫を實行し得ざりし好箇の口實を與へ所謂豫定の錯誤は僅に第二期計畫を了したるのみにて現時の出炭一日一千五百噸の大部分は舊渾支拆衷の五坑より出し殘餘の一部を新坑より出すに過ぎず

○地形及礦區

礦區は泗水山脈の東南側に位し郡山三面を環り西南は遠く直隸

平原の東南端に蒞み南方は江蘇の諸山に相對す恰も廣濶なる盆地に居り一帶の平原をなし炭鑛所在地として地勢頗る良好にして運炭、小車、馬車の往來甚だ便利なり泗水山脈は泰山沂山等の山東諸山脈の末葉にして博山章邱等の高地と相連絡す

鑛區は之を三分し棗兒莊附近に在り東西四十支里南北八里面積三百七十七方里にして現在の鑛區地點左の如し

第一區 在嶧縣郭集西北、棗兒莊大小甘林山家陶莊一帶

東李家莊より 西小宮莊の西一里半 南田屯莊より 北李家莊より
田屯莊に至る 西より蔣家莊に至る 蔣家莊に至る 小宮莊の西一里半 以上面積三百〇六方里

第二區 在嶧縣郭路集東北安成村東西三支里九七南北一支里

四、此面積五方里六分

第三區 在嶧縣郭路集東南安成村東西長四支里八南北廣一支

里一三、此面積五方里四分

○地質

附近を構成せる地質は片麻岩、寒武利亞紀、石炭紀及第四期層にして片麻岩紀層は黑雲母片麻岩なるも石英及肉紅色長石の粗粒を含むを以て紅色を呈し大小の石英岩脈をなして縱横に通せり諸岩層の基盤をなし南或は南十度西に五十度乃至八十度急斜し峨山口附近より棗兒莊に至る平野は東西に延長發達せり寒武利亞紀層は不純石灰岩及含雲母硅板岩の互層より成り片麻岩を不整合的に被ひ西又は西北緩斜雖曲せるが成生の新しきと風紀抵抗力强き爲め支那人の平頂山即孤山的地形をなし北面に聳立連互す次に石炭紀層は片麻岩平野の南に該層を不整合的に被ひ南に傾斜し石灰岩硅板岩、頁岩の厚層より成り劣等なる石鐵鑛床及三層以上六層以下の石炭岩數層を以て構成せらる次に第四期層は砂礫にして安城村の河流に多少區域をなして發達せり

○炭層及炭質

嶧縣炭層を俗に分ちて左の五種とす、(一)磙子(二)鷄子夾炭層(三)泥炭層(四)大炭層(五)柴炭層なり而して柴炭層の上に所謂麵炭層あり泥炭の下には薄石層或は直立石層あり是等は何れも質劣等にして開採し得ず從來より土人の採掘し來れるは即此五層なり炭層は五層を有し東西に延長し略西南より東北に向ひ傾斜下向き角度は相均しからざるも北へ二十度乃至二十五度より二十八度あり但地質の變遷に従ひ石崖の間斷炭層の傾斜及走向又は差異あり今主要層高を示さんに

- 第一層 柴炭層 三 呎
 - 第二層 大炭層 十五呎乃至三十呎
 - 第三層 泥 層 四 呎
 - 第四層 鷄子石層 四呎乃至五呎
 - 第五層 直立石層 二呎五吋
 - 第六層 炸子層 六呎乃至七呎
- 以上合計約五十呎にして炭層は地を異にしては厚さ又等しからず大炭層の如きは棗兒莊の西南に於ては厚さ十五呎にして東すれば約二十一呎あり其最厚き北部は三十呎を示す齊村の西方に一大斷層あり南北に延長し棗兒莊、大小五家莊、雷家莊、陳家莊、田家莊、大殷村等の東方は石炭紀夾炭層にして最も炭層厚く且つ其質優良なるものとす
- 現時稼行の主要炭層は第二層の大炭層にして第三第四の二枚も亦可採炭層にして爾餘の三枚亦曾て採掘せられしものなり然るに棗兒莊より漸欲東に進み牛角嶺四近に至る時は第二層大炭層第四層鷄子石層第六層炸子層の三枚を缺ぎ
- 泥 窩 層 層厚五尺 直立石層 六尺の内厚さ一尺餘の夾石一枚あり

柴炭層 同 五尺

の三枚を残すに過ぎず炭質は各層夫々多少の相違あるも概して良好なる瀝青炭にして第一層柴炭層、第四層鷄子石層を除き他は稍良好なるコークスを製すべく殊に主要炭層たる第二層大炭層は堅緻にして塊炭を得るに易く焼出せるコークス亦優等層厚の大と相俟て本産炭中群を抜く元來嶧縣炭は開灤井陘臨城諸炭と同じく半有煙炭にして就中臨城炭と其質相近し尙詳説すれば半有煙炭中第三種に屬す尤も各層其品質を異にするも第四層及第六層は品質良好にして臨城産炭の第四層及第七層と相等しく第二層の下部は良好なり本炭の燃付の點より云はば日本炭に比して遅きも開灤井陘諸炭に比して早きが故に此點に於て需要者側に好まるるなり今本炭分析の結果を示す事左の如し

成分	炭層	大炭層 (普通)	大炭層 (中部)	大炭層 (下部)	コークス
水分	〇・五〇	一・二〇	〇・五〇	一・五〇	
揮發分	三二・三四	三二・五〇	三二・〇〇	三二・〇〇	
灰分	一五・八二	一七・五四	九・九二	一六・九六	
硫磺	〇・七〇	〇・七三	〇・六四	〇・六八	
磷	〇・〇〇八	〇・〇〇七	〇・〇〇五	〇・〇〇九	

以上の分析表は支那人側の分析なり以下邦人の分析表を掲ぐ

成分	種別
水分	嶧縣棗兒莊
灰分	五、九四
炭素	六、九〇
水素	六七、三九
硫黄	五、七三
	〇、三三
	〇、一八
	嶧縣南安成
	〇、九四
	六、九八
	七四、五三
	三、八九
	〇、一八

酸素	一三、七一	一三、四八
火力	七二八〇	八〇〇二
揮發分	四〇、〇八	三四、五二
コークス	五九、九二	六〇、五五

更に塊粉兩炭の他の分析表を示す

成分	塊炭	粉炭
水分	〇、九八	一、七一
揮發分	二三、五四	二六、七二
固定炭素	六三、五六	五三、二一
灰分	一一、九二	一八、三六
硫黃分	〇、六三	〇、六五
骸炭質	粘結僅に膨脹す	同上
灰色相	灰色	灰色

○炭量及出炭高

炭量に關しては小層の劣等なるものは之を論せず大炭層に就きてのみ記述せんに大層の炭量は約二億萬噸にして一日二千噸を採掘し尙二百年の開採を得べく全六層を計算せば其可能採掘年限は非常の數を表す事となるべし今農商工部の周學熙の調査せる報告を參考の爲に左に記述すべし

嶧縣炭礦は縱四十餘支里橫六七支里にして之を三段に分ち中段は即ち棗兒莊にして嶧縣城の北方二十五支里即ち現在の中興炭礦なり西段は中段と並行し自朱家輔より西、大小甘林の第二分礦、東段は自鄒塢より山家林及滕縣の陶莊即ち第一分礦之なり大層の平均炭厚約二十尺にして面積に照し開方計算の平均二萬三千七百餘萬噸之を折半して可能炭量となすも即ち一萬二千噸

毎日二千噸を採掘して尙は二百年の供給に應じ得べし而して炭質は僅に土質の含有百分の六にしてコークス及鎔鐵、鍊鋼の用に適當し炭層極めて平にして斜度二十五度を超わす採掘工事亦便なり

次に直隸省臨城礦務局技師長鄭榮光の調査報告によれば氏は含炭區域を假に五十平方哩とし全炭層の厚さを平均二十五呎とし實在炭量を十二億八千萬噸と計上し更に之を六十平方哩層厚三十呎に假料し豫想炭量としては十八億三千八百萬噸を埋藏すとせり今各方面の調査を綜合し之を基礎として計算すれば左の如し

炭田の廣袤は西方齊村の東より東方安城村附近に至る約三萬八千八百八十尺南北一萬二千六百尺其内主要炭層の分布區域は上述の土法採掘個所の狀態により之を知るべし西方區域は約一萬八千尺内外にして東方牛角嶺礦區は其炭層の過半は既に採掘され居れるを以て計算に對し二區分す

西區含炭面積を一億二千六百八十萬平方呎平均層厚を二十五呎一噸の容積を二十七立方呎とするときは

$$126,800,000 \text{ sq. ft.} \times 25 \text{ ft.} = 117,407,407 \text{ 噸}$$

$$27 \text{ cub ft.}$$

となり次に東區の面積を二億六千三百〇八萬八千平方呎平均層厚を十呎其他を同一條件とする時は

$$263,088,000 \text{ sq. ft.} \times 10 \text{ ft.} = 97,440,000 \text{ 噸}$$

$$27 \text{ cub ft.}$$

となり此兩區を合せて二億一千四百八十四萬七千四百〇七噸となり假に其六割を可採量とせば一億二千八百九十萬八千四百四十四噸餘となる

而して其既に採掘せられたるものは今日迄數百年を經過せるを以て知るを得ざるも光緒三十三年より民國二年に至る五箇年間中興公司が採掘せる噸數は百十九萬七千九百六十四噸にして民國三年より民國七年末迄の採掘炭概算百六十八萬七千六百噸と云へるを以て毎年五十萬噸を採炭し即ち詳言すれば一日の出炭高獨逸式堅坑より一千噸支那式煤出より五百噸にして計一千五百噸一箇年の出炭高約五十萬噸づゝを採炭し得るものとし二百三十餘年の採炭を爲し得るものと計算し得るなり

次に農商部特派員たる山東財政廳鑛務技術員朱中行の爲せる調査によれり中興公司の鑛區は其蓄炭量極めて豊富にして其西區は面積に比し炭量少く是既に採掘せられたる殘炭に過ぎず面積三百〇六方哩にして平均炭層の厚さ二十呎俯角二十度比重一、三其總炭量八億四千三百三十七萬五千四百五十七噸なり

$$306 \times 1800 \times 10502 \times 20 \times 62.5 \times 1.3 = 843,375,457 \text{噸}$$

2340

而して此炭鑛は已に採炭數百年を經過し深さ五百呎に達す該公司數年間の採掘額左の如し

一九〇七年 約	一五〇,〇〇〇噸	一九一三年 約	二五〇,〇〇〇噸
一九〇八年	一五八,二三七	一九一四年	二五〇,〇〇〇
一九〇九年	一三九,七二七	一九一五年	二五〇,〇〇〇
一九一〇年	二五〇,〇〇〇	一九一六年	二三八,〇〇〇
一九一一年	二五〇,〇〇〇	一九一七年	二八二,〇〇〇
一九一二年	二五〇,〇〇〇	一九一八年	三一一,〇〇〇
(自一九一五年至一八年鑛師李士條調査による)			
計	二七八〇,九六四噸		

以上の採掘額と數百年來今日に至る迄の既掘採炭量約二千萬噸と見て尙八億二千三百三十七萬五千四百五十七噸を有し此内可能採炭量を其六割を得るものとして四億九千四百二萬五千三百

七十四噸にして該公司の將來開鑛すべき山家林、陶莊等にして採炭開始され豫定計畫の採炭量百五十萬噸に至るも尙二百八十年間の採掘に堪ゆるものとす

△鑛内事情

本炭鑛の工事に對しては之を三期に區區する事を得即ち第一期は初次の建業時代に屬し概して舊法によりて處辨せられ居れり其後續いて鑛業に關する經營を有する者來礦し機械技師數名を應聘するに至れり而して第二期に入り舊炭井を一層整開し新式機械、電氣又は昇降機等を設置應用し漸次設備を完成せり此に於て採炭量激増し近年益々發達を來せり第三期に至り獨逸人技師コーフマンを聘し技師長に任命し其他支那人技師中最も經驗あるもの數名を増聘し極力其改善に努力し其進行を圖り漸次秩序ある方法を以てし舊土井も同時に開採せり一方新井鑛坑道の工費に従事し居れる爲め新井採掘炭量は舊土井總出炭量に及ばざるも將來完成の上は土法による採炭は停止さるゝに至るべし而して東南適當の地形に一大礦坑を開くべく其計畫されしものあり今左に土井一覽表を掲ぐべし

井名	井深	出炭量	使用人夫
金一	一三〇尺	一,〇〇〇噸	一二〇人
同二			
同三			
同四			
同五	三八〇尺	一七〇噸	一四五人
同六		一〇〇噸	
同七			
同八			
同九	四四〇尺	一八〇噸	二五〇人

同	一〇	五〇〇尺	排水中
同	一	三二〇尺	同
同	一	三二〇尺	停止
同	五	二二〇尺	二二〇人
同	六	二二〇尺	二二〇人
同	三	一五〇尺	排水中
同	四	一五〇尺	二二〇人
同	五	一五〇尺	排水中
同	八	一五〇尺	排水中
同	九	一五〇尺	排水中
同	五	四〇〇尺	排水中
同	五	四〇〇尺	排水中

新發炭見中

○採炭一般

(一) 礦道

堅坑は舊礦の東にありて周徑十二尺深さ七百尺井の周圍は煉瓦又は灰打にて頗る牢固に作られ坑底は南北に穿たれ煤層を過ぎ礦區は東西の兩段と定められ兩端と煤層の交叉する所は東西に通路を開き復道背道あり煤層に隨ひ曲折し五百尺の間隔を置き南北に小道を作り其小道は煤層の傾斜に隨ひ延長され約三百尺に至る又東西南北の小道も煤層に隨ひ開鑿され之に三百尺内外に及び各道の垂道距離約五十尺なり而して東段の腹道は二千餘尺にして東南方に折向し西段腹道は約千五百餘尺位なり又第一層の大道高さは平均六七尺なり

(二) 運搬

採炭運炭には昇降機及び坑中には複軌道を設け斜傾坑道線の軌一端には轆轤を据付けありて採掘せし石炭を入れたる竹筐を一舉七、八筐捲揚げ捲降しつゝあり而して昇降機に依り七百尺の堅坑より搬出しつゝあり

(三) 排水

坑内の湧水は之を導きて南方にある一地に排水せしむるものにして池は舊坑道に係り深さ七百四十尺なり東井は水少く坑道の一方に溝渠を設け之を他に送り或は又は小蒸汽機械により發動の唧筒を用ひて之が排水の補助をなさしめつゝあり西井の水湧は一千尺の大道の間にして水量多し此にも亦蒸汽ポンプを用ゆるも熱度高く作業困難なり又西井附近土井の水は直接排水不可能なるを以て井底を鑿通せしめ閘を設けて他水の流入を開き居れり朱技師は四十五尺にして井底に及ぶと云へり排水は一分時間約二百十立方呎の排唧筒にて一日二時間運轉し湧水増加せる時には四時間を要す以上の諸設備は畢竟七百四十尺の池に導入するにあり此池に能く全鑛の湧水を容れて尙餘りあり池中の水は電氣ポンプを以て排水せしめつゝあり

(四) 支柱

大井内第一條平卷及石卷は皆紅色耐火煉瓦にして橋形を成す最も堅牢に工事せられ炭層炭上の地板は粗粒砂にして又極めて堅し故に支柱を省略し得る事多し每一噸の石炭採掘には僅に支柱費用として十仙乃至三十仙にて足れり

光線は凡そ電線の通ずる所電燈の設備なき所なく紋車電氣燈及各大卷附近は獨逸式安全燈を使用せり

(五) 動力

坑内所用機械は殆ど直接に蒸汽機械を用ひ其種類數量甚だ多きも舊式に屬す只機器廠及び電燈廠兩ボイラー等は新式にして且大なるも磨電機及昇降機附屬のボイラー等は新式の設備に屬し昇降機の四個のボイラーあり内熱式にして Internally Heated ボイラーの圓筒形なる最大壓力一平方吋百三十封度即ち九氣壓な

り附屬兩電機のボイラー最新水管式 Waterwall Tube は自動炭器を具有し其壓力百六十封度なるも目下其百十封度を使用せり轉動電機之汽機大小兩筒の Cylinder にして別に心力的旋轉排水機 Centrifuge を備ふ熱水排出百尺の高塔に送水す而して自然冷却法を施す電機に屬する分岐類は Shunt Cy NaMo 交流 Aeternative Current 千五百馬力三千五百基ボルト二臺を備へ一臺を運轉せり本電機は電鎖絞車及び電氣ポンプ所用電力の凡てを供給す

(六) 採炭法

大井内の採炭法は變形長壁法を引用し居れり其工作は炭脈に隨ひ下方に傾斜し其百尺に達する毎に東西横貫の道を造り七百尺の深さに在て第一條の平産あり炭層の地板に隨ひ南北に斜巷を穿つ斜下三百尺乃至八百尺の深さに於て第二條平巷あり此の如く再び下降して九百尺に至り第三條の平巷に達す炭柱の大きさは普通五十英尺にして此大炭柱採炭方法は先づ斜巷内の炭層の地盤より一南北平巷を穿ち直に炭層岩頂に至り平巷兩端直角の處に於て炭層に穿入し豫定の尺度即ち五十英尺に至り再び鑿開南北巷を作り然る後一方を鑿巷す採炭完了後は石材を填補するものとす炭井底部の西部に約二十度の斜巷一道あり自ら第一條の平巷より第二條の平巷を穿過し第三條平巷に達す長さ約六百尺斜巷の頂上には二十馬力の電氣絞車一臺を設置しあり一回の引揚量三分の一噸にして炭車四輛に積載す其餘各處の斜巷は平巷の延長により之に比例し多きを加ふ揚炭は多く分堆車を用ひ採炭支巷高約七尺巾約八尺一支巷に坑夫三四名を使役す炭巷の廣き所には複線鐵道を設け其狹き處にありては單線を敷く軌の幅員一呎の二分の一にして採炭の方面に向て東西北の三面に進行せり南面は舊井の溜水未だ排水なきを以て其設けなし西北東北

及北面は均しく斷層に遇ひ其上部及所を異にして採炭道を穿開し現今又炭脈に逢着せり而して東面の炭層は舊井の溜水の洩出し來るを恐れ未だ深く鑿開せず

以上は獨逸式堅坑に於ける採炭法にして元來中興公司是當初土法にて稼行し其後洋式を併用し汽罐ウインチ等を備へ採掘せり現今博山章邱に於て用ひらるゝものと同式なり數年前獨逸人を聘し採掘法を改善し溜川炭礦の如き獨逸式堅坑を設け顯然面目を一新し今猶新舊二法を兼有せり而して支那式土法稼行に於ては總數三十餘箇所ありしが大堅坑建設以來其數を減じ前項の礦内事情の表に示すが如く現在十數個を残すも採掘井は其内七八にして他は排水材料等の捲揚降をなせり是等大井炭層は西南一帶に在り又大審炭層系にして其厚度稍薄く井又淺し採炭用の柱房法を用ひ其大を一定せず井内の運搬は均しく人力を使用す運炭用の畚は二三十斤を容るゝ小器なり井上に於ける畚は百二十斤のものを用ひ井上に運出する機械は石油發動機を用ゆ

(七) 選炭、煉焦其他礦外設備

昇降機によりてする滿載車は井口を出で籠中より轉炭機に推入し篩分く又其上下に二分せる大小粉末を篩分し其臺の長さ約十尺幅三尺なり次に本礦の煉焦窯は唐山炭礦所用の方法によりて行はれ窑の形は圓形にして容炭十噸にして其所要日數約二週間なりコークス量は百分の六五を得而して往時本礦のコークスは棗兒莊に於て全部製造せられ居り各地にて分運に際し稅額より大なるに至り損失尠ならず現在の蚌竿、臺兒莊等に焦窑を設備し居れり而して棗兒莊に在る窑數の存在するもの尙二百箇所に及べり

廠内には二臺の冶鐵爐を備へ毎次能く三噸の鐵を出す其車輪管筒汽門及機械附屬品は皆目鐵のものに係り甚大なるもの五六尺の鐵推の如きあり又機器廠には Table, Drills, Cutting, Boring 等の機械具備せざるなく又水力機あり廠の西北部に在る小重機(辦公處電燈の原動力)も此水力機によりて運轉せり又鐵工廠には煨鐵爐七、八組を備ふ煉瓦工場にては原料は一種の耐火粘土を使用し其色紅黃にして公司の北門外に於て掘取し之を輕便鐵道によりて上場に送る先づ粗石を輪碎し小塊と爲し之を粉碎す其質は粗なり其度は毎寸二三十の穴ある篩にして Mesh 之を篩過して水洗し其乾燥せる後瓦窑に入る窑は能く一回に二萬個を燒く其圓徑約十五尺高さ十七八尺なり其公司炭坑の需要は半箇月の製造にて之を充つ本礦に設備せらるゝ水道用土管は公司の南方四支里の所に於て採掘し三十乃至四十孔の篩を以て篩過し之を原料として製造す次に石炭窑は無蓋窑にして單に石灰石を入れ下部より加熱する簡單なる製法を應用せり本工廠の其他の設備として木工廠ありと鑄造質型等を製作す材料廠は約八萬元の材料を貯藏せり又北部空地の土井にては所要の麻繩其他竹筐等を作る

貿

易

(大正八年)

支那重要輸出入貿易

○貿易額

大正八年支那對外直接貿易額は金銀を除き十三億四千二百八十七萬八百十八海關兩にして此内より再輸出額を除げる純貿易額は十二億七千七百八十萬七千九十二兩を算し過去に比して著

しき増加なるが若し之を金を以て現はさんか實に異常の増加にして假に紐育に於ける平均爲替相場により金を以て之を示せば一九一〇年に比し二十一割九分、一九一三年に比し十五割の増加となる貨物の輸入額は六億四千六百九十九萬七千六百八十一兩同輸出額は六億三千八十萬九千四百一十一兩にして其額僅少なりとするも尙輸入超過を示せるに更に金銀の輸出入に於て約一億兩の輸入超過を示せるは如何なる理由に基くものなるか説明に苦しむ所にして畢竟船積の際に於ける輸出品の價格が實際の價格と相違あるものならん、支那對外貿易は主として戰亂の影響並に幾分自然の成行として米國にとり有利となり即ち米國との貿易額大正二年の七千三百萬兩より二億千百萬兩に激増し輸入一億千萬兩輸出一億百萬兩となれり即ち約九百萬兩の輸入超過を示し例年の輸出超過の例に反せり之に加ふるに米國よりは金銀の輸入極めて多額に上れるは特記するに足るべし、英國よりの輸入は稍回復せられたりと雖とも尙大正二年同三年に比し多少の逕庭あり之に反し英國への輸出は最近十年間の平均額の二倍以上となれり、佛國との貿易は輸出入共に最近十年間の平均以上にして白耳義との貿易は輸出に於て回復したるも戰前多大の額に上れる輸入は尙未だ語るに足らず伊太利への輸出は平均以下にして歐露及西比利亞との貿易が最近十年間の前半に比し著しき減退にあるは何人も首肯する所なるべし我日本との貿易は輸出入共著しく増加し日貨排斥其他の事情ありしにも拘らず空前の成績を示せり即ち大正元年の輸入九千百萬兩輸出五千五百萬兩に對し二億四千七百萬兩及び一億九千五百萬兩となれり

○輸入貿易

外國輸入貨物の總額は六億四千六百九十九萬七千六百八十一兩にして前年に比し九千二百四十萬四千五百九十九兩又戰前大正二年に比し七千六百八十三萬五千二百二十四兩の増加なり而して阿片の輸入殆んど絶無となれるに拘らず(大正二年には阿片の輸入四千四百萬兩あり)此増加を見たるは特に注意するの價值あり輸入總額六億四千七百萬兩の中綿製品は二億千萬兩を占め金屬類は五千六百五十萬兩石油は四千六百七十萬兩砂糖は三千五百萬兩紙卷煙草及び卷煙草は二千八百八十萬兩に上り其他鐵道汽關車貨車千五百萬兩機械千四百萬兩魚類及び海產物千百萬兩紙類千二十萬兩自動車二百一十一萬兩を著しきものとす

△綿製品 大正ノ年綿製品の輸入總額は前年の一億五千三百三十八萬兩に對し二億九百七十八萬六千兩にして此中綿毛交織は前年の二百一十一萬五千兩に對し三百十八萬二千兩に上れり毛織物は三百六十萬四千兩にして増加を示さず雜織物は前年の五百三萬七千兩より増加して六百七十一萬五千兩となれり然れども價額の増加は必ずしも數量の増加を示すものに非ず試みに二三綿製品の數量を戰前と比較するに左の如し

單位	大正二年	同 八年	比較
綿 織 物	二七五三、〇五五	二、九七九、七四三	△五八、六二五
同 碼	一〇三、三八八、八六六	一、六五五、一八二	○三、三二〇、〇三三
綿 絲	二、六六五、三三三	一、〇四四、六六一	△一、五九八、〇二二
手巾及浴巾	三、四六六、三六六	二、三三三、三三三	△一、一三三、〇三三
同 擔	一	八六	○八六

即ち大正二年に於ける一億八千二百萬兩の輸入は是より約三千萬兩を増加せし大正八年の輸入に比し數量に於ては著しく多大なるを見るべし此等數量の減少は一部價格の高價なりしに起因するも亦支那に於て綿製品の製織隆盛となり外國品の輸入を

阻止せること與て力あり大正二年及び同八年中稅關經由輸移出支那綿製品の數量を見るに左の如し (單位海關兩)

	大正二年	同 八年	比較
生 金 巾	三三三、〇八	八七五、五八	○五四二、五〇〇
シーチング	一、六二五、〇三三	一〇、七三三、七三	○八、一一八、七〇〇
雲 齋 布	四七六、六三三	二、四六六、八一	○二、〇九〇、一七八
土 布	六三六、〇三三	八、七八八、九七	○八、一五二、九四四
精巧土布	九二五、二七	二、四九〇、〇〇	○一、五六四、七三
綿 絲	一、四七三、〇〇〇	七、九八三、〇〇五	○六、五一〇、〇〇五
計	二、四四三、〇〇〇	二、九八八、七三七	○五四五、七三七

全年を通じ綿織物は極めて旺盛にして相場は日と共に昂上し產地に於ける年末の市價は年始に比し實に七割の騰貴を示せるものあり然れども銀兩を以て計算すれば白色布の如きは却而幾分の低落を示せり

△金屬及鑛物類 金屬類の總輸入は五千六百六十萬九千兩に上り前年には千七百六十三萬七千兩大正二年には二千九百十五萬六千兩なりき而して金屬類にありては價額の増大と共に數量も亦大に増加し銅錠は主として貨幣鑄造用として入せられ其額三十一萬七千七百六十九擔に上り前年の十二萬四千四百八擔大正二年の二十萬七千三百三十六擔に比し著しき増加なる鐵類も亦著しく増加し錫板の輸入も亦大に増加したれども本品は廣西產品が一旦香港に輸出せられ同地に於て精煉の上再び支那に輸入せられたるものに係り鉛鋼及び鋳力等も亦何れも著しく増加せり大正八年の前年にありては支那國內政界不安にして取扱商も亦大に警戒を加へ市面の動搖常なかりしが故に金屬類の輸入額は増加したるに相違なきも若し貨物と船腹とを充分に獲得し得たりとせば更に一層の發展を見たりしならん歐米諸國に於て勞働

者の同盟罷業等により産額激減し従て産地價格大に昂騰したりしも支那にありては銀高の爲め殆んど何等の變動無かりき

△雜貨 主要雜貨の輸入數量を見るに食料品材料及び染料は大に減少したれども機械及び其他工場的發展維持に必要な材料は大に増加し機械の如きは正二年に於て四百六十五萬兩なりしも同八年には千四百十萬兩に激増し紙卷煙草及び葉卷煙草は二千百萬兩の巨額に上れる等國內消費及び輸出向として製出額の巨額に上れるものあるに對比して驚異とすべきものゝ一なり

品目	單位	大正二年	同八年	比較△増
鐵及軟鋼	擔	二八、四四	三七、六五	○一、九〇九
亞鉛引鐵板及線	同	三、五〇〇、四九	四、九四八、五五	△一、四四八、〇六
鐵	同	二、九一五、八五	二、六九四、九二	△二、二〇〇、九三
鐵力	同	三、三三六、三六	四、一〇九、〇三	○七、七六二、六九
鐵礦	同	一、五五六、六六	六、四四四、四四	○五、〇八七、七八
建築材料	同	二、四四四、七七	五、七六六、九二	○三、三二二、一五
米及精米	HKT 擔	五、四一四、八六	一、八〇九、七四	△三、六〇五、一二
紙卷煙草	千本	六、二〇〇、〇七	七、七一九、四七	○一、五一九、四〇
葉卷煙草	千本	三、八五五、六五	四、九一七、六	○一、〇六二、〇一
棉花	擔	一、四七五、五	三、九〇〇、三	○二、四二四、八
アニリン	海關兩	五、四〇一、八〇	三、〇三九、一七	△二、三六二、六三
人造藍	擔	三、九五六、六	一、八七五、五	△二、〇八一一、一
機械類	海關兩	四、六五〇、〇一	一、四一〇、四九	○三、二三九、五二
肥料	擔	九、〇八五、七	一、四一四、一二	○七、六七一、六五
機寸	哥	二、八四八、一五	六、五九八、九四	△三、七五〇、七八
牛乳罐詰	打	四、八三、七〇	四、三三六、三六	△一、五〇二、六六
石油	ガロン	一、八三九、八四〇、五二	一、九三三、九七五、三	○一〇四、一三五、七
機械油	同	二、四四九、五八六	五、六五四、四五	○三、一九五、八六九
鐵道材料	海關兩	七、一六九、二五五	一〇、二二六、三二	○三、〇五七、〇六七
鐵道材料	同	四、三二七、六九四	三、八六三、三三	△四、四六四、三五

石鹼及原料	海關兩	二、六八五、二	二、三九四、六	○二、九四〇、五
各種砂糖	同	七、二二七、六	五、八七五、五	△一、三五二、一
木材(軟)	同	一、四八七、六三	二、三三六、九	△八四九、二六
輸出貿易	平方呎	二、三三六、九	二、三三六、九	△四、二七二、四

大正八年支那品の海外輸出額は六億三千八十萬九千四百十一兩にして前年に比し三割大正二年に比し五割六分の増加とす若し之を金に換算すれば前年に比し五割五分大正二年に比し二十割八分の増加にして實に空前の記録なり而して其増加は大部分輸出物價格の昂騰に因るものなる決して原因の全部に非ず主要輸出品十種に就き大正二年の數量と比較するも直に明瞭にして即ち左の如し

品目	單位	大正二年	同八年	比較△増
生絲	擔	一、九〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	○一、六〇〇、〇〇〇
種油類	同	一、八七〇、〇〇〇	四、四三〇、〇〇〇	○三、一四〇、〇〇〇
豆類	同	一、八一八、〇〇〇	二、〇七五、〇〇〇	○二、九五七、〇〇〇
豆類	同	一、〇三三、〇〇〇	一、五一一、〇〇〇	○四、七七八、〇〇〇
小麥	同	一、八四八、〇〇〇	四、四三〇、〇〇〇	○二、五八二、〇〇〇
麥粉	同	一、九〇〇、〇〇〇	二、六九〇、〇〇〇	○一、七九〇、〇〇〇
棉花	同	七、九〇〇、〇〇〇	一、〇一七、〇〇〇	○三、〇〇〇、〇〇〇
胡椒	同	二、〇三三、〇〇〇	二、六九〇、〇〇〇	○四、〇〇〇、〇〇〇
山羊皮	同	七、九七五、〇〇〇	一、三三三、〇〇〇	○六、六四二、〇〇〇
茶	同	一、四三三、〇〇〇	六、二〇〇、〇〇〇	△五、一〇〇、〇〇〇

輸出貿易に於ては茶及休戰の結果として需要杜絶せる或金屬を除き重要輸出品の殆んど全部に於て増加し又は復舊せる此外特記すべきは穀類の輸出實に空前の額に上れることす就中米は輸出禁制品たるに拘らず特別許可による輸出額は百餘萬擔に上り生絲及び其製品は輸出品中最も重要なものにして生絲の輸出額は實に一億兩を超過せり次に主要輸出品を價額の順次

に擧ぐれば種油四千六百萬兩豆粕四千四百萬兩豆類三千九百萬兩穀類(粉を除く)三千六百萬兩棉花三千萬兩皮革類二千六百萬兩種子及び油粕二千五百萬兩鷄卵及び蛋黃蛋白二千五百萬兩茶二千二百萬兩金屬二千二百萬兩羊毛千四百萬兩砂糖九百萬兩凍肉及保藏肉八百萬兩棉製品七百二十萬兩石灰七百萬兩麥稈真田七百萬兩煙草七百萬兩紙卷煙草六百萬兩落花花生六百萬兩豚毛四百七十五萬兩とす

△生絲 生絲は年初需要なく在荷堆積したりしが三月末に至り絲價昂騰し在荷忽にして一掃せられ六月以後新糸の先取引行はれ糸價益々昂騰したるも需要衰へず全年の輸出額一億兩以上となり未曾有の巨額に上れり

△茶 大正八年茶の輸出額は綠茶二十四萬九千七百一十一擔紅茶二十八萬八千七百九十八擔にして前年に比し著しく増加せり然れども露國の壤亂の爲前年に除ける他の年に比すれば尙著しき減退なり大正八年輸出總額中英國は綠茶六萬九千四百一十一擔紅茶十三萬七千六百八十四擔(何れも近年中の最高額なり)佛國は綠茶五萬三千六百三十二擔紅茶七千八百八十八擔米國は綠茶七萬二千九百三十一擔紅茶一萬五百六十四擔を占めたり露國に對しては陸路及び太平洋洋口に向け紅茶二萬二千擔以上積載せられたれども恐らく其殆んど全部は仕向地に到著せざりしならん

△豆類及豆類產物 豆類の輸出額は大正二年に比し實に四割六分の増加を示せり歐洲市場復興し且つ滿洲に於ける農業著しく發達したるにより豆類の產出額は最近十年間に五割方増加せりと稱せらる然れども豆類の實際輸出額は豆が輸出品として始めて重要なものとなれる一九〇九年に比し増加せず之に反し豆粕の輸出額は殆ど倍額となり豆油の輸出額は十六倍するに至れり

豆粕及豆油の製造は今や支那に於ける重要工業の一となれり從來豆類の需要先は露國を第一としたりしが現在にありては日本を第一とす日本にありては之を以て豆油を搾油し之を米國に輸出し豆粕は國內に於て肥料に供す豆粕の輸出額は千百八十一萬八千四百四十三擔大正八年に二千七十二萬四千七百六十九擔にして其輸出先は殆ど全部日本なりき日本は米價高値となりしより農家は何れも好景氣にして多量の肥料を購買することを得たるなり英、丁の二國及蘭領東印度は豆の輸入國にして米英及瑞典は豆油の主要輸入國なりとす

△小麥及小麥粉 小麥の耕作及製粉業の顯著なる發展は近時經濟史上の特色なり而して滿洲に於ける小麥產出能力に關しては世人多く之を知悉すと雖ども北支那及中支那長江沿岸に於ける產出額の増大に關しては知る者多しとなさず然れども大正二年の麥粉輸出額を大正八年の輸出額に比すれば十一萬九千四百五十一擔に對する二百六十九萬四千二百七十一擔にして其増大の著しきは何人も一驚を喫するならん大正八年の輸出額中日本と露國と各三分の一を占め其餘は英國、比律賓、香港等に輸出せられたり而して香港より更に佛領印度、支那等へ再輸出せられたる額尠ならず麥粉の輸入は大正二年に二百五十九萬六千八百二十一擔なりしが大正八年には二十七萬三千三百二十八擔に減少せり又小麥の輸出は大正二年に百八十四萬八千七十一擔なりしが大正八年には四百四十五萬三千四百七十一擔に増加し日本は其約四割四分、西比利は五割五分を占め其他麥粉の値廉なりしを以て國內に於ける需要も甚だ旺盛なりき

△棉花 棉花の輸出は國內需要の漸増にも拘らず例年に比し毫も劣らず大正八年には百七萬二千擔に上り其内日本九十一萬二

千八百擔を占め米國は十一萬二千擔を占めたり棉花は支那の領土中十四省に產出すれども現在主要なる產地は直隸、山東省西部、湖南、湖北、江蘇及浙江の各省に限らる漢口は湖北、湖南產區の咽喉に當り現に紡織業の一大中心地たらんとして又上海及海外への輸出の主なる通路たり天津は百五十の織物工場及三大紡績會社を有し尙建設中の紡績會社あり直隸及山東西部の棉產地區は數年ならずして著しき發展を見るに至らん然れども現在に於て上海は紡績工業の主位に居り戰時中著しき發展を遂げたり大正二年中上海移輸入棉花六十一萬四千擔中十三萬五千擔は外國より輸入せられ大正八年の移輸入額は増加して百三十三萬三千擔となり外國よりの輸入額二十萬五千擔となれり而して移輸入總額中七十一萬擔は再輸出せられ上海工場に於ける消費額六十三萬三千擔と推算せらる

支那各港より海外へ輸出せられたる棉花の總額は前年の百二十九萬二千九十四擔より百七萬二千四十擔に減少せり而して其需要者は殆んど全部日本なり然れども綿絲の輸出は大に増加し前年の二萬七千七百四十五擔より六萬七千二百三擔となれり茲に特記すべきは一萬三千擔の綿絲を英國に向け輸出せるの一事とす支那各港棉花移輸出額を見るに大正二年には九十五萬三千擔なりしもの大正七年には二百十八萬五千擔となれるを見るも支那產棉產の日々増大せるは毫も疑を容れず而して大正八年に於て少しく減少して二百二萬二千擔となれるは國內の需要増加せるものにして支那に於ける紡績錘數は數年中に二十五萬錘を増加すべしと期待せらる最近の推算によれば支那の棉花產出額は千萬乃至千二百萬擔と算せられ世界に於ける棉花產出國の第三位を占む棉花の高價なる未曾有の好機に乗じて其產額は益々

増加するならん

△胡麻 大正八年胡麻の輸出額は二百八十三萬八千五百四十擔にして大正六年の二十二萬三千二百擔大正七年の二十三萬四千三百三擔に比し著しき増加なり是れ大正三年迄主要消費國たりし和蘭、獨逸、佛國等へ輸出杜絶せる戰時狀態より回復せられたるを示すものとす而して一九一〇年の輸出額は二百七十三萬七百六十三擔に上り一九一一年より一九一三年に至る五箇年間平均額は二百萬擔以上なりき休戰後本品市場は他の總ての油種子と共に先づ第一に回復せられたるものにして大正二年は油種子の輸出に於て平均年と見做し得る年なるが其額約十二萬噸に上り大正三年も終の四箇月にして貿易停頓せざりせば大約前年の敵額に上りたりしならん戰時中特に大正六七年は船腹拂底し殊に獨逸潛航艇の暴威を逞ふせるありて胡麻の如き容積大なる貨物は輸出不振を極め實際歐洲への出荷無く唯僅かに日本へ仕向られたるのみ而して輸出停頓を來すや否や直に作付面積の減退を來せり然れど他日の回復期を豫想し大なる苦心を以て之を貯藏せるものあり果して大正八年に至り爲替高及印度品の競争ありしにも拘らず胡麻市場は大なる苦痛を感ぜざるに至り更に又作付面積を擴張するの有利なるを見るに至れり歐洲に於ける戰時中の缺乏は今や補足せられて需要少しく停止の狀態にありと雖ども各國の工場次第に復舊せらるゝに至らば胡麻貿易が戰前の狀態に回復せらるべきは容易の事にして其將來は支那重要品の一として栽培者取扱者共に大に注目するの價值ありと信ず

△植物油 豆油に就ては既に豆類の頃に於て之を述べたり落花生油の輸出は百二十二萬四千七百七十三擔、千三百九十四萬九千四百四十一兩なる未曾有の巨額に上り主要消費國たる日本及米

國への輸出額は共に著しく増加せり米國への輸出は大正五年に始まり青島に於ける製油能力の増大は最も著しく又落花生産地に於ける各港にありても亦著しく増加せり胡麻油貿易は未だ重要な程度に達せずと雖大なる増加を示し大正八年の輸出額は前年の二萬六千二百二十二擔より増加して三萬七千七百五十五擔四十三萬八千三百二十六兩となれり米國は近來又本油をも購買するに至れり、桐油の輸出額も亦未曾有の額に達し六十一萬三千四百五十五擔、七百九十六萬九百六十八兩となり前年に比し實に二割五分の増加にして前年も亦大正二年に比し少しく増加せる年なりき大品の貿易に於て特筆すべきは加奈陀が大購買者として現出せることにして大正八年中二萬八千七百九十三擔を輸入せり

△皮革類 生牛皮の貿易額は大正二年に於て最高額に上り四十九萬八千三十八擔、千五百十八萬四千三百四十四兩に達し歐洲主要國何れも大消費者なりき戰爭勃發の後輸出價額は大に増大せるも數量に於ては増加を見ず而して米國及日本は主なる輸入國たりされど大正五年以後輸出額は次第に減少して大正八年には三十八萬三千三百三十三擔、千三十六萬三千三百八十一兩となれり山羊皮鞣さざるもの、輸出額は大正八年最も多額に上り千二百七十三萬二千二百九十枚、八百五十八萬八千七百四十兩となれり而して米國への輸出額は前年に比し四割を増加せり次に其價格に就て見るに大正三年以前には比較的良品も一擔大約八十兩(上海兩)なりしが近來價格昂騰して最良品は百八十兩較々良好なるものも割合に高價なりき戰爭中日本市場へ向け大量の山羊皮輸出せられたりしが今や大に減少し現在にありては米國を以て主要仕向國となす

△麥稈・眞田 本品の貿易は歐洲戰爭中極めて不振なりしが大正八年に於て既に戰前の舊態に回復し大正二年の輸出額十萬千三百七十七擔に對し十萬二千六百四擔に上れり而して價額は五百七萬四千四百四十三兩より七百七十一萬七千五百八十七兩に増大せりと雖其利益は僅少なりと稱せらる

△羊毛 本品の輸出も亦最高額を示し三十六萬五千八百二十六擔、千六十萬九千九百七十九兩となれり然れども年末に至り最大市場たる紐育に於て在荷過多となり爲に市況沈衰せり日本の購買額も著しく激減して本品の前途は暗慘たるものあり

△豚毛 大正八年豚毛の輸出額は前年の七萬千六百三十一噸、六百六十八萬二千四百六十四兩より五萬千六百三十一擔、四百七十四萬八千八百九十兩に減退せり然れども大正八年の輸出額は前二年の約三倍となれり然れども消費各國に於て年末に近く價格激落し市場の不味と銀塊の昂騰と相合して此減少を見たるものとす

△麻布 大正八年苧麻布の輸出額は二萬六千二百七十七擔、三百十三萬八千八百八十二兩にして其輸出先は亞細亞諸國に限られ朝鮮は輸出全額の五分の四を占む苧麻布の原料たる苧麻の貿易は九割迄本邦人の手中にあり其輸出額は二十一萬九百四十一擔、二百七十三萬二千八百四十七兩にして前年に比し甚だしく減少せり

△金屬及鑛物 安質母尼、銑鐵及鐵鑛、錫及銅を近來支那輸出鑛產物の大宗とす安質母尼の輸出は戰時及戰前已に巨額に達し價格も亦大正七年迄益々昂騰したりしが休戰の後需要の減退に伴れ本年末には前年に比し六割四分の下落を示せり而して精、

粗、砂鑛三種の輸出額は前年の二十七萬三千九百二十八擔、二百二十五萬九千五百四十六兩より十四萬七千五百四十一擔、六十三萬五千九百九十八兩に減少し前年の三分の一となり銅錠及銅塊は前年も大に減少したりしが本年は更に減少して僅かに九千五百三十三擔となり銑鐵の輸出額は二百七十一萬二百三十一擔、八百七十七萬五千二十四兩として前年に比し敵量は伯仲の間にあるも價額は半額となり本年鑛產貿易に於て特記すべきは鐵鑛の輸出増加せることとす即ち前年の六百二十六萬千六百六十二擔、百三十五萬九千五百九十六兩より千五十八萬九千三百七十五擔（約六十三萬噸）二百四十萬二千五百二十四兩となり鐵鑛は半ば大治鐵山より半は蕪湖附近の新鑛山より產出し膠州亦少量を産す其輸出先は日本にして長沙及北海の滿俺も亦日本に輸出せらる

△其他 革及革製品の輸出は戰爭により大に増加せり即ち大正六年には戰前の年平均額一萬六千擔に對し四萬九千三百八十一擔、三百二十六萬兩に上れり但し翌大正七年には二萬四千擔となり戰前の數量に比すれば尙大なり、甘草の輸出は前年の五萬七千擔前々年の七萬七千擔より一躍して十五萬七千擔となり戰前の五年平均額二萬擔に過ぎざりしに比すれば著しき増加とす支那產甘草は露西亞土耳其等より供給せられたるものに代れるなり而して米國に於ては煙草及（チューインガム）の製造に使用せらる、鮮肉及凍肉の輸出額は三十八萬九千九百二十五擔、三百八十四萬九千六百六十七兩に上り主として英國及露國に仕向けられ戰後麻尼刺及日本にも仕向けらる、乾肉及鹹肉の輸出額は家禽を合して二十六萬二千五百擔價額三百八十一萬千三百六十七兩となり大正二年に比すれば十倍となり、五倍子は戰前主

として獨逸に仕向けられたるが大正八年の輸出額は前年の四萬五千三百九十九擔、前々年の六萬五千八百九十擔に對し三萬四千五百五十五擔に過ぎず、植物脂の輸出額は十六萬四千五百四十四擔にして戰前に比すれば著しく少額なるも前年及前々年に比すれば著しく増進せり

青島貿易近況（七月）

本月中埠頭輸出入貨物の數量を見るに其陸揚（輸入）は二萬二千六百六十六噸四船積（輸出）は六萬三千四百八十三噸八を示し之を前月に比すれば輸入に於て一萬六千九百九十六噸七を輸出に於て一萬九千四百九十八噸五の激減を示すに至れり

陸揚貨物

三六三三

二六六四

三三三九

船積貨物

二五三六

八五二二

八〇四八

計

六一九三

三六三九

五七五七

更に之を昨年同月分と對比するに輸入貨に在りては二千六百六十六噸五の減退を示せるも輸出貨に在りては二百十三噸四の増加を示せり

本年七月甲

昨年七月甲

昨年との比較

陸揚貨物

三六六四

二四三三

一二三〇

船積貨物

二五三六

八五二二

八〇四八

計

六一九三

三六三九

五七五七

次に輸出貨物の仕出仕向地に就て見るに依然上海對青島貿易の盛況を示せるにも拘らず日本向輸出は八幡送り鐵鑛一萬七千餘噸德山送り淄川粉炭九千九百噸を除くの外は激減し殊に神戸大阪兩港仕向の如き前月に比し六千六百四噸一の激減を見昨年に比すれば實に六十三%の減退率を示し僅かに兩港を合して四千

七百九十噸の輸出を見たるに過ぎず

輸 出	輸 入	昨 年	輸 入
-----	-----	-----	-----

○日本内地

大 阪

神 戸

門 司

横 濱

金 山

若 松

八 幡

其 他

○朝鮮

仁 川

金 山

○臺灣

基 隆

打 狗

○支那

大 連

上 海

芝 罘

天 津

其 他

○外 國

香 港

浦 鹽

其 他

合 計

合 計

主要輸出入貨物情勢 (八月)

財界の不況は各方面に影響し當港輸出入貨物の上にも漸次其影を濃厚に現はし來りたる事左表に示せる如く本月中の輸出貨物を昨年同月に比較すれば生牛、落花生、石炭の二三種を除くの外他は悉く減退の跡を示さざるは無く殊に原鹽、葉煙草、花生油、豆油、棉花、麥稈真田の如き重要貨物の激減を來せるを見れば其影響の輕からざるを想見するに難からず輸入貨物に在りては一時的反動とも見るべき綿絲布の活況による支那絲の取引増加を呼び木材は豫約物の殘數取引ありて一萬餘噸の輸入を見たる結果輸入總數量に於て二割弱の増加を來せりと雖も山東並に奧地河南、直隸、山西地方一體に亘れる饑饉の爲め土産物は收穫を減じ土民は購買力を減殺せられ此上尙一層の不振を豫想せしむべきものあり時局の不況と共に當港貿易上將して如何なる程度迄影響を及ぼすべきかは瞞目に値すべし八月中の主要貨物輸出入數量を示せば左の如し(單位噸)

△輸 出 品

品 目	八 月 中	昨 年 八 月 中	比 較
生 牛	九一八	三七	○ 九二
落花生實	二五八	二七	○ 二八五
小 麥	一四七	八一〇	△ 六七三
牛 肉	二八八	三六	△ 二八
麥 酒	五九	五三	△ 一七
鹽	一六九九	三七三四	△ 二〇四五
葉 煙 草	一三七	二二六	△ 八九
花 生 油	四一	一六四	△ 六三
豆 油	三	二四四	△ 二四三
牛 脂	九一	六六	△ 二五

棉	三	四六	△
石炭	三六八	六六二	△
桐材	六九	六〇	△
麥稈	五	六四	△
豆	一〇七四〇	一〇七四〇	△
鐵	一〇七四〇	一〇七四〇	△
其他	一〇七四〇	一〇七四〇	△

○輸入品

米	五三	二四〇	〇	二六三
海產物	五〇	二	〇	四八
砂	四三	二〇五	〇	二二
煙草	七五七	六〇一	〇	一五
石油	一五	七五五	△	七〇〇
燐寸	六六	二	〇	六二
綿絲	一八四	七四	〇	一〇五
綿布	七〇	三三	〇	四七
麻袋	三六	四三	△	九七
洋物雜貨	二六	二二	〇	一〇
紙類	一〇七	二二	〇	四二
石炭	一七五	二六九	△	一八四
セメント	一七	一九二	△	九四
木材	二〇二	四九	〇	二八
其他	八七二	九六七	△	一七六

民船貿易 (八月)

本月の民船貿易は漸く大麥、小麥の出廻り旺盛となりたるを青島附近に産する梨の收穫時期に當れる爲同貨の夥だしき上海移出を見其他豆、高粱、玉蜀黍、蒜頭、花生仁等一齊に活氣を呈し來りたるが鮮蛋の移入は卵粉市況不味の爲昨年比すれば九十七萬餘個の減退を見米は上海米產地に於ける米價の暴騰と出

境禁止の爲移入不利に陥り花生油は輸出商況不味の爲何れも減退を示すに至れり(單位噸) 山東興業株式會社の秋の成績

△移入品 七月 八月 昨年 本年 比較

品目	七月	八月	昨年	本年	比較
豆	六〇〇	二五	〇	五七	
竹	六〇〇	二五	〇	五七	
白豆、黃豆	三六九	五八七	〇	五八七	
大麥	四六六	二二六	〇	二二七	
高粱	八六八	五七八	〇	四三〇	
玉蜀黍	六八〇	二四〇	〇	三九四	
米	二六	三六	△	一四八	
小麥	一四七	一九六	〇	五五二	
祥	二六八	一〇六	△	九八二	
鹽乾魚	三九六	一〇〇	〇	三三	
麵粉	三三	八三四	〇	九七	
蒜頭	一六八	六五四	〇	三九一	
花生仁	八七七	七五八	〇	七五八	
花生油	三六七	二四〇	〇	一〇一	

○移出品

蠶絲	一五七噸	七元噸	〇	五九
石炭	一五七噸	七元噸	〇	五九
梨	一七〇	一九五	〇	二八一
各種	一七〇	一九五	〇	二八一
豆	一七〇	一九五	〇	二八一
油	一七〇	一九五	〇	二八一
陶器	一七〇	一九五	〇	二八一

海運及鐵道

青島港出入船舶 (七月)

本月中の入港船舶(汽船)は八十二隻此登簿噸數八萬五千七百九噸にして出港八十三隻八萬八千七百二十五噸を算し之を前年同月分と比較すれば隻數に於て二十七隻の減少なるも噸數に於ては却て七十餘噸の増加を示し大型船舶の就航を繁からしめたる傾向あり積載貨物は積荷六萬三千四百八十三噸八揚荷二萬一千六百六十六噸四に上り昨年同月と大差なき狀況を示せり更に之を一月以降の累計に算するに入港八百三隻八十二萬五千二百十噸出港八百一隻八十二萬五千六百七十八噸卸荷二十三萬二千七百三十五噸九積荷五十七萬七千五百十二噸七に達せり

本年七月中		昨年七月中	
入港	八三隻 八五七九噸	一九隻 六二六四	
出港	八三 八八七五	一一 八六三六	
卸荷	三、六六四	三、三三九	
積荷	五、四八八	三、七〇四	

更に本月中に於ける入港汽船の仕出地は日本内地二十七隻仁川二隻大連十九隻上海二十四隻芝罘一隻天津二隻海州二隻其他五隻にして出港船舶仕向地は日本内地三十四隻打刺一隻大連十七隻上海二十隻芝罘二隻天津一隻海州一隻浦鹽一隻マニラ一隻其他五隻なりとす而して前記船舶の國籍別を示せば日本六十四隻英國九隻米國四隻支那六隻にして漸次英米兩國船舶の回航を多からしむるに至れり

内地近海運賃擡頭

今春以來海運界は内外航路共に不振に陥り今や全く悲境のどん底に沈み繫船の如きも既に中小型を併せて五十隻以上を算するに至りたるが繫船の増加に従ひ最近々海航路は多少小型船の不足を感じたる結果運賃も多少引締り大松丸(一五五〇三井)は室濱三圓にて成約あり七十錢見當の高値を現はすに至りたるが右は近海航路の出荷が増加したりと云はんよりは寧ろ小型船腹の航海が減少したるを以て船主が或程度迄運賃を吊上げたる人爲策と見るに至當とするが故に直に之を以て海運界の復活を豫想する能はざるべし

三驛發著土要貨物概況 (八月)

本月中の青島大港埠頭三驛發著貨物の情勢を見るに發送貨物一萬七千八百二十九噸一到著貨物一萬五千五百五十七噸二を示せるが本月中は中秋節を眼前に控へたる事とて發送貨物中綿絲布、砂糖、雜貨、高粱、豆等の活況と共に順調の増加を示し到著貨物は牛、葉煙草、セメントの數貨を除くの外は一體に振はず昨年同月に比し七千四百餘噸の減退を示せり就中小麥は日本向輸出完了の爲全然到著貨を見ざるのみならず奥地不作食料品缺乏等の爲却而六千七百餘噸の發送貨を見るに至れり石炭及びコークスは稍輸出の活氣を誘ひ商狀恢復を見るに至りたるも未だ昨年に比すれば甚だしく遜色あり桐材、落花生油、豆油等亦内地商況不味の爲減退せるがセメントは山東興業製産の増加と共に盛況を示し葉煙草は二十里堡を中心とせる煙草植付反別の増加に従ひ輸出力の増大を示すに至れり(單位噸)

△發送貨物

品目	八月 中	昨年八月 中	比較
品	九八八	六四六	△ 一五七三
木	六九二	〇・一	〇 三六九〇
大豆	七一九	四三四	△ 三三四五
鐵板及鐵製品	三六二	〇五	〇 三六五六
豆粕(大豆ヲ除ク)	五二九	一六二	〇 五〇五八
高粱	六八七五	一九六	〇 六八七九
小麥	三六五	三六六	〇 一九一九
支那紙	二五五	二四三	△ 二八八
綿布	三九四	三〇	〇 三七四〇
綿絲	九元三	七三九	〇 八五五
石油	一〇〇〇	一〇七四	〇 八五五
肥料	一六六	一	〇 一六六
砂糖	五六六	四七	〇 四四九
藥品	一七〇	二四七	〇 一三三
煙草	二五二	一九〇	〇 六八〇
茶	一三七	二七	〇 一三〇
魚類	一九八	四〇七	〇 一五八八
雜貨	六四七	八七五	〇 五〇三
燐寸	二九七五	三六六	〇 七二
麻袋、木袋	二九四〇	六七一	〇 三六九
△到着荷物			
石炭	九二〇七	九八八二	△ 七〇七四
コーカス	二四二	五五〇	△ 三三四九
石灰	五五〇	一三〇〇	△ 六八〇
セメント	七六〇	三三〇	〇 四三〇
綿	二四七二	一八三七	〇 六三五
桐	七三三	四九〇	〇 二四三
瓜及西瓜	三九七九	二九五	〇 三八四

落花生油	二六五三	三〇三九	△ 二三八六
豆油	六四七	五五〇	△ 四〇三九
葉煙草	三三八頭	二六八頭	〇 五二四六
牛	一六三二七	四〇三二	〇 六三〇
大豆	三二一	四〇五五	△ 四〇五五
小麥	六二	一四七五	△ 六六二
鷄卵			

山東鐵道上半年輸送狀況

大正九年上半期に於ける山東鐵道一般輸送貨物總噸數は九十九萬〇六百三十九噸六內無貨取扱貨物四十三萬〇四百六十八噸一にして之れを前年同期間に比較すれば有貨貨物二萬七千五百十九噸七無貨貨物に在りては九萬八千八百三十六噸八の増加を示せり有貨貨物は年々増加を現はせるも本年は日貨排斥の影響を受け綿絲布砂糖糖雜貨等の激減を來したるも高粱は四千九百五十七噸六の輸送増加と落花生葉煙草桐材等の取扱多かりし爲め總噸數に於ては幾分の増加を現はせり又無貨貨物に在ては金嶺鎮鐵道の輸送開始により増加を見るに至れり左に本年と昨年との比較月別を示せば

月別	一車扱	小口扱	無貨扱
一月	八八三四〇	七九二二	一八九九
二月	五九八二七	七、八三八	一一六三
三月	二〇四八三	八、五四八	一九四八
四月	一八三三七	九、四六二	一九三四
五月	二八二四二	九、四二五	二七三七
六月	六九二六六	一〇、三三八	一、六四二
計	五五、八三三	五三、八三三	九八、一三
昨年	六八、八七五	六八、八七五	六八、八七五
本年	五五、八三三	五三、八三三	九八、一三

青島三驛發著貨物の驛別總數噸は發送貨物に在りては青島驛の四萬四千四百七十四噸四大港驛の一萬二千九百七十九噸二埠頭荷扱所の一萬八千〇七十八噸七到著貨物に於ては青島驛の四萬四千九百九十六噸七大港驛の五萬三千四百十二噸二埠頭荷扱所の三萬九千〇六十二噸一にして取扱貨物の主なるものは青島驛に

在ては石炭、綿、絲布、砂糖、燐寸、鐵類及諸雜貨にして大港驛は石油、落花生、油類、燐寸、石炭、埠頭荷扱所は石炭、コークス、高粱、落花生、木材、煙草、葉煙草等なり左に上半期中に於ける發著貨物の數量を示せば

驛別發著

驛	別	發著	計					
			一	二	三	四	五	六
青島	驛	著	六六四二〇	四四七〇	二〇六七三	八四二六〇	七九二六	六二九五五
			八二四四六	六五九三	八七三三九	八四四八三	七四八六	四四九六一
大港	驛	著	二二三三五	一八四六三	二七三三	二九元	二〇四四	一〇六八
			三三二四〇	九八八八	五〇五三三	四九六八八	六九四五	四三四六
埠頭	荷扱所	著	三八九五	二、三三五	三、四三八	三、三二六	三、五八七	一八四二六
			八三九七	五、二四四	五、六九八	六、五九八	七、五二五	五七〇九
計	著	發	二二七五〇	八六五五七	一六、八四四	一四、六六六	一三、九一七	九三三八九
			三八七四三	二、七五七	九、四七九	二〇、三六九	三、九四六	一四、六三六

にして主なる貨物中本年と昨年との比較増減を見るに發送貨に在りて増加したるは高粱、木材のみにして他は何れも日貨排斥財界不振の爲め減退せり到着貨に於ては小麥輸出禁止の爲め甚しき激減を來したるも他は一般に増加を示し殊に葉煙草の如き

は著しく八千三百八十七噸九の激増を見るに至れり其他特種の現象之無も昨今は殊に小麥の發送多く綿絲布の如きも荷動き始めたるにより下半期に於ける状態は一變するならん

△發送貨物比較表

品名		年別		一 月		二 月		三 月		四 月		五 月		六 月		計
高	梁	本年	昨年	一五四三七	三三三	八六二	一〇一七九	七三〇	六六八	五〇七八						
		本年	昨年	二〇一	一	一四四	一	一五七	一	五〇三						
砂	糖	本年	昨年	九〇六八	七九一五	一一二九三	九九四三	五三三七	三九八	四〇七四						
		本年	昨年	六三・四	一九六九	一一八三六	一三四五七	一九六六	九八八	八二二〇						
燐	寸	本年	昨年	六六九六	八二	三七九二	四八五九	三六三	一〇六四	二〇九五						
		本年	昨年	二二五二	三・〇六	三六七三	四三八〇	六六二	二二二七							
綿	絲	本年	昨年	三九二	一一八〇	四七五	五〇三三	九七五	六八三	三・九九七						
		本年	昨年	五九二五	一四七一	一六二五	一〇九二	一二七三	一六七	六・七四三						

[illegible]

大正九年上半期中山鐵全線に於ける乗降客人員は百六十一萬二千六百六十八人にして之れを昨年同期間と比較するときは三十九萬七千九百四十五人の増加あり其の原因は歐洲出稼苦力の歸還に依ると雖も統計の示す處によれば當地發展につれ年々増加の趨勢にあり左に大正九年上半期に於ける乗降客人員と昨年との比較月別を掲げ尙青島大港兩驛に於ける乗降客を示すべし

月別	大正九年	大正八年	比較増減
一月	二七五・四八三	二二七・九九四	増四七・四八九
二月	二五〇・六六五	一九五・〇五三	同五五・六一二
三月	三三一・六七九	二三一・八四九	同九九・八三〇
四月	二七六・八一九	二一三・七一五	同六三・一〇四
五月	二七七・〇二三	二〇三・八五七	同七三・一六六
六月	二〇〇・四九九	一四一・七五五	同五八・七四四
計	一、六一二・一六八	一、二一四・二三三	同三九七・九四五

青島、大港兩驛乗降客 (本年自一月至六月)

月別	青島驛	大港驛	計
一月	二八七九	二七、五三	五、六三二
二月	二九二八	二七、八二	五、六四〇
三月	二七、六四	二九、四五	五、七二九
四月	二四、九〇	二六、七八	五、一三八
五月	二六、八二	二六、七九	五、三六二
六月	二一、九〇	一九、四二	四、一三二
計	一八、三三	一四、七〇	三、五七五

商況 (九月)

◎綿糸布

△綿絲 是迄相場高と日貨排斥の爲極度の買控を見つゝありし

綿絲も漸く秋の需要期に入りたると排日運動に奔走せる學生等追々復校沈靜せる爲弗々市況の好化を見るに至りたるが近頃の安値に對し一層買進み連日百俵より二百俵弱みの取引あり稍好況を迎へしも中旬以降大阪三品定期計算面白からざりし模様にて市況著しく軟調に傾き其に伴れ當地も漸落の步調を辿り月始相場に比し約十兩見當の崩落を演ぜしが安値には却而買進み動なからざる取引を見るに至れり

△綿布 時期の關係上細綾、天竺等弗々商内ありたるも大口取引行はれず不振裡に月を終れり

品名	十目	廿目	卅目
△綿絲	一七五	一七	一四七
△綿布	一五七	一五	一四八
△福島	一五	一四	一四
△銀月	一五	一四	一四
△扇面	一五	一四	一四
△福島	一五	一四	一四
△銀月	一五	一四	一四
△扇面	一五	一四	一四

品名	十目	廿目	卅目
△綿布	一五	一四	一四
△福島	一五	一四	一四
△銀月	一五	一四	一四
△扇面	一五	一四	一四
△福島	一五	一四	一四
△銀月	一五	一四	一四
△扇面	一五	一四	一四

◎砂糖

本月は仲秋節を控へて市場は實需筋の買進みにより相當活氣を呈する見込なりしが爲替懸念による先行の不利を案じ支商一體買控への氣味にて先物取引行はれざりしも實需小口物相當荷捌けありたるが中秋商内としては案外無氣力にして例年同期の四分の一にも達せず従つて相場も日本糖四温庫渡金三十二圓見當より漸落氣配を辿りつゝ月末二十八圓五十錢迄落込み中秋節後は金融界の不況と一般商勢不振の爲市況氣迷ひ殆んど無商内に

て本月を終れり

◎燐寸

三社の協調中絶以來思ひ／＼に販路の展開に努力し極度の競争を惹起せるが又々上旬より下旬へかけ大分日本投賣物輸入せられたる一方城陽支那人工場製安物の出廻りを見市中聊か荷もたれ氣味にて荷捌け捗々しからず月始地物菰包銀三十八圓日本物二十六兩を唱へしか強氣材料皆無の爲氣配頗る軟調に傾き中頃地物銀三十七圓輸入物二十四兩と下押尙此上の慘落を豫期せられしを以て當地製造家は早くも此形勢を察し生産を減じ地賣を控へて濟南に送り安値投賣を爲せる向ありされど安値輸入物の一掃を見るに非ざれば市場の活況は望まれざるが如し月末地物三十六圓五十錢輸入物二十四兩見當を弱保合へり

◎白米

月始内地豐作の爲期米暴落の入報ありたるも當地の需要米たる鮮米產地々方は却而不作なりし爲其割に下向かされど矢張内地相場に押されて八九十丁方下押し青島著石五十圓六七十錢見當を唱へしが月末に近く大阪期米二十七圓九十九錢と瓦落せし爲鮮米も夫に伴れて赤一呎十四圓三十錢青十三圓八十錢と低値を現はすに至れり然るに上海米は弗々新米出廻りを見たるも市中上米拂底にして百五十磅入一袋十八弗半上海市場十七弗半と暴騰殆んど鮮米と同値の奇現象を呈したる爲當地の需要は鮮米の獨占に歸し上海米は全然顧みられざるに至れり然るに月末に至り上海に於ける奸商の好策暴露し當局は米商の取締を嚴にせる爲遽かに產地十一弗と暴落漸く愁眉を開きたるも當地は尙十六弗を唱へ鮮米との間に左程の値開き無く依然鮮米の獨占に委せ

◎木材

り建築界の不況は依然として繼續せられ木材は僅かに小口賣行を見するのみにして荷捌け捗々しからず各店共相當手持を擁して策の施すべきを知らざる有様にあり然れど對岸大連方面は既に投賣時代を經過して市場少しく強調に變じ當地も幾分時局救濟の爲め建築用資金の代用證券として取引所信託株を採用の議決せられたる模様なれば建築界の好況と共に市況漸次好調を呈するに至るべしと推測せらる月末相場左の如し

赤松	柚角	才	銀十一錢	白松	杞角	才	金十三錢
同	挽材	同	金卅五錢	同	挽材	同	金二十錢

◎花生油

新油出廻準備期に入りたれど市場休止の爲市況頗る閑散にして先物取引殆んど行はれず相場は月始新物(舊十一、十二二十五弗古油十三弗六十錢よりデリ安の步調を辿り十四日新十三弗八十錢古十二弗八十錢迄落込みたりしが華商筋は三百車以上の手持を控へ買手あらば何程にても賣放さんとする弱腰は益々市況の不味を誘ふに至りしが米市況少しく見直したるものゝ如く時々廣東幫の買物現はれ一方大連豆油の硬化と共に神戸市場聊か取締り來りしが買人氣弱く賣手は品薄を楯に二十四圓五十錢と高唱に當地氣配も漸次硬化し月末古油十三弗二十五錢迄引返せり

◎花生實

秋口に至らば多少の引返しを見るべき見込にて久敷持堪へたる外商筋の投賣物現はれたるも買手無く相場は益々軟調を示し市中在荷約一萬袋以上に上り貯藏手當に苦心しつゝありしが神戸

市況益々不味の爲邦商引咎皆無なれ共月末に近く廣東幫或は上海商舖筋弗々買進み稍市況の好化を見るに至れり

◎原鹽

本年政府納鹽の一段落と共に仕向地の開放ありたるも浦鹽、勸察加方面は内亂の爲殆んど商況杜絶の有様にして剩鹽の處分に窮し埠頭堆貨益々増加一方なる爲相場は漸次下向し月始白鹽上四元八十錢二等三元十錢と低値を唱ふるも買手なく等外鹽の如き噸二元七十錢と未曾有の相場を現はすに至りたるが尙商況恢復の見込立たずしてザリ安の步調を辿り二十五日白鹽上四元二十錢と暴落市況全く沈衰せしが月末に近く釜山方面への積出しありて稍活氣を呈し相場は遽かに六七十錢高を傳へ白上四元八十錢二等三元六十錢と持直し尙先行相當高見込にて充分の強調を示せり

◎桐材

大阪滯貨は一時非常の數量に上りしが日を経るに従つて漸次消化せられ當地も丸太、下駄臺共船毎に輸出せらるゝの狀況に推移し市中堆貨半減相場も一二錢方上押するの順調を見たるを以て既に奥地買出の準備を爲す向ありと聞けりされど阪地市況は依然軟調を持續し金融關係上特に安物賣行良好なるが如し當地相場は山東物才十二三錢河南物堅口十五六錢同軟口十二錢見當を保合へり

◎鶏卵

各種貿易品の不況に引換へ鶏卵の輸出は盛況を迎へ相場も月始新大玉銀十六元を稱へ買氣益旺盛を極めしが上海方面よりも亦

渺なからざる安値輸出を見たる爲め内地市況一變弱氣に傾き二十一日阪神仲渡極上物一箱八圓二十錢と暴落し夫に伴れ當地も一氣に新大玉十三元七十錢と崩落先行不安に襲はれしが内地の不況は一時的にして二十九日神戸シフ大玉箱九圓二三錢と持直したるを以て當市場も再び活氣を呈し一般買進み月末新大玉十四元二三十錢並十三元五六十錢と昂騰渺なからざる輸出を見るに至れり

◎石炭

博山炭の上海市況は同市場優良炭の出現により著しく不味を呈し一時輸出不能の狀態に陥りしが斯くては山東炭界に及ばず打撃甚大なるを以て百方善後策を講じたる結果山鐵當局者は先づ博山炭の炭質を向上せしめて萎靡せる市況を救はんか爲十月一日より輸出博山、章邱兩炭の青島炭坑間運賃の二割七分を減額し更に博山炭業組合の検査に合格したるものに對し幾分か割戻を實施することゝし以て輸出炭の改良を企て上海市況の恢復を圖りたれば同炭の輸出は著しく有利となり上海市況の好化と共に漸次好調を呈するに至れり然るに淄川炭に在りては八幡德山向積出減少し日華協信の上海積出も又近頃著しく減少せる爲め粉炭の貯炭は増加の一方にして昨今約二萬噸を算する一方最も賣口よき一號及二號洗炭の出炭減少を來せるは同炭の輸出上一大打撃たるべし日本炭は内地相當剩炭を控へ居れば銀價の如何によりては暖房用或は汽船パンカー用として相當輸入の餘地あるべし月末相場は博塊FOB銀十元同切込七元内外筑豐雜及唐津は十元半乃至十三元見當を保合へり

協會錄事

九月定例總會

九月定例總會は十日午後七時協會内に於て開催出席會員左の如し（順序不定）

龍口銀行支店	東和公司支店
東亞煙草會社	日本綿花會社
安部洋行	江商會社支店
三井物產會社	橫濱正金銀行
鈴木商店	和盛公司
峯村洋行	日本郵船會社
東洋鹽業會社	山東運輸會社
大倉商事會社	青島製粉會社
大連製氷會社	大日本麥酒會社
青島絲廠	山東起業會社

以上二十名、例に依り晚餐後飯塚會頭議長席に着き議事を開く

○代表者中交任紹介の件

會員代表者中交任ありたるは日本綿花會社支店にして即ち林田勇氏の後任として鶴原梅次郎氏著任本席御出席に付御紹介する旨會頭より述へ鶴原氏起て一同に挨拶せり

○土地問題報告の件

右は前回總會に於て調査部附託となり研究中の處別に工業部に在ても工場地に關する本件と同一問題起り工業部會を開き委員を設けて民政署長を訪問したり思ふに同一問題なれば工業部長よりの報告を以て諒承せられんことを乞ふ旨議長より前言し石

橋工業部長の報告を促せり依て石橋氏起て大要左り如く報告す官有地借地料の引上げは其の率高きに似且つ突然の發表にて工場地の如く廣大なる地面を有する者に在ては影響する所鮮からず依て工業部會に在ては兎に角本件に付當局の意向を聴取することし委員を設けて其任に當らしめたり委員たる佐々木國藏、河原熊太郎、三宅重孝の三君及び余は吉見書記長を同伴本月八日秋山民政署長官を訪問せり而して長官より聴取したる所に依れば借地料の引上げは財政上増收の途を溝したるに非らざるも當地の近き將來に鑑み地租營業稅其他の課稅が必然的其地經營の財源たらざるべからざるに拘はなす從來の官有地貸下料は餘り低率に失せり即ち中央政府の方針に徴するも近時各地の經營は可成其地自身自活の途を執らしむることなり居れば一朝當地現制度の撤廢あられか當地に於ける土木教育衛生其他一切の財政は當地自から之を負擔せざるべからず然るに從來の如き低率なる借地料を以てしては之を現行地租に比較するも平衡を得たるにあらず今日より其の準備行為として本件を諒承せられんことを望む猶ほ本件實施の時機が一般經濟界不況の際に逢着せるは實は本件は二三年前よりの懸案にして偶々其の決定の時機が今日の經濟界に逢着したる次第にして以て如何ともし難きものあり併し土地問題に就ては大に根本的考慮を要するものあれば充分努力する積りなり云云とあり依て委員一同は之を諒として退出せり本件に對し之れ以上は委員として何等の考案を有し居らず

右大要報告後飯塚議長

只今石橋工業部長の御報告を聴き且又余自身に當局より聽く所に徴するも本件は最早決定的のものして如何ともし難き次

第なるが然し諸君の御意向を以て更めて何等かの方法を講じて可なり如何致すべきや

猶ほ本件に就ては別に町内總代に依て夫々請願書提出の手筈なりとのことなれば其の經過を見ることに止め一先打切ることにしては如何

との提議あり協議の結果夫れに決す

○日華實業協會に關する件

右は過般該協會より會員入會に付通知あり當時早速各員に御移牒個人、法人、兩會員の御入會有無を圖りたる所個人會員に在りては三宅駿二、松崎翠の兩君法人會員に在りては日華協信山東運輸の兩社入會希望の旨申出ありたれば其旨該協會に通報すると同時に該協會と當協會との連絡關係及支部囑託該協會の事業内容等不明の點照會したる所今回詳細なる回答に接せり只今全文を朗讀すべし

(吉見書記長回答全文朗讀)

之にて大體御諒解のことと察するが要するに當地會員として二三個に別すに御入會あるよりも當協會自身入會するを便利なりと信す即當協會が入會することになれば第一其の會費の負擔を輕減し得べし日華實業協會法人會員の會費は年額金參百圓なれば當協會か入會することとし其の會費を會員全體にて分擔せば假に五十名として月額金五十錢を釀出せば足るべし第二該協會々務の徹底を期するものあるべし

即ち當協會か該協會會員たらば該協會會務一切は直に會員たる當協會に通告あるべし是等のことを思考せば當協會自身が入會するを以て最經便の方法なりと信す各位の御意向如何と飯塚議長より提案圖りたるに異儀なく之に決す即ち

一、青島實業協會の名を以て日華實業協會に入會すること
二、青島實業協會會員は日華實業協會法人會員會費年額金參百圓を分擔する爲め毎月金五十錢を釀出すること
三、當協會員にして今回該協會に入會せられたる分は更めて之を取消すこと

之を取消すこと

○正隆銀行支店入會の件

右と紹介者青島糸廠(鈴木格三郎氏)大倉商事會社(石橋藤次郎氏)にして例に依り投標を行ひたる所全部承認票(白票)を以て入會を可決之にて議事を終り午後九時散會せり

飯塚會頭送別會

飯塚會頭(三井物產會社支店代表者)送別會は九月廿七日附屬運動部合同午後七時大辰に於て開催出席者左の如し(順序不定)

青島 龍口 銀行 廠 吉澤 洋行

東和 公司 大連 汽船會社

日華 協信 公司 南 昌 洋行

日本 綿花會社 福 昌 公司

原田 汽船會社 湯 淺 洋行

安部 洋行 湯 淺 洋行

朝鮮 銀 行 東 洋 鹽業會社

江 商 會 社 山 東 運輸會社

橫濱 正金 銀行 岩 城 商 會

鈴木 木 商 店 神 戶 棧橋會社

中村 組 支 店 大 倉 商事會社

大連 製氷會社 大 日 本 麥酒會社

山東化學工業所 久原商事會社
 日華窯業會社 泰利商會
 大阪商船會社 青島鹽業會社
 正隆銀行支店 東洋拓殖會社
 山東興業會社 內外綿會社支店
 伊藤忠商事會社 日本郵船會社

(以上協會員)

高木鐵太郎 井手伊吉
 中川勝夫 西郷一司
 岩本賢三 片山亥六
 上田二三雄 山名義高
 澄川友敬 永室藤太郎
 鈴木武彦 松本壽八
 小松勇雄 橫森喜長
 渡部誠 木崎六三郎
 望月陽 安彦哲次郎
 山崎宇三郎 和田重次郎
 棚橋貞通 藤谷兵藏
 澤原靜衛 井上謙一
 吉井勝夫 (以上運動部員)

主客合せ約七十名、席定るや工業部長石橋藤次郎氏起て飯塚氏
 かが青約五年間當地經濟界作振の爲め努力されたる功績を嘆賞
 し協會及運動部に在て常に督勵指導の任に當られたるは永く感
 銘するに足る今や好個の會頭を送るに當り惜別の情特に切なる
 ものあり願くは益々健康に將來共御指導あらむことをと述べ松
 本運動部理事飯塚會頭の爲に乾盃之に對し飯塚會頭は青島經濟

界發展の徑路に就き一言し將來益々各位の御奮闘を祈り併て協
 會及び運動の發展を祈ると乾盃之より宴席大に賑合ひ操太夫
 の常盤津藝妓連の餘興數番ありて盛會裡に午後九時半散會せり

濱丈夫氏送別會

當協會員三菱商事株式會社青島出張所代表者濱丈夫氏は今回本
 社に榮轉愈々當地を去らるゝこととなりたるを以て協會主催に
 て九月十八日午後六時半衆の家に於て送別會を開催せり出席者
 左の如し (順序不定)

東和公司支店 日華協信公司
 日本綿花會社 安部洋行
 江商會社支店 井物產會社支店
 橫濱正金銀行支店 鈴木商店出張所
 中村組支店 大連汽船會社出張所
 南昌洋行 東洋鹽業會社
 岩城商會 大倉商事會社
 久原商事會社 泰利商會
 青島鹽業會社 東洋拓殖會社
 山東起業會社 大阪商船會社
 正隆銀行支店
 阿部銈二 竹田津三平
 高木鐵太郎 西郷一司
 片山亥六

席定るや大倉商事會社代表者工業部長石橋藤次郎氏起て送別の
 辭を述べ濱氏の健康を祝するため乾盃次て濱氏の答辭ありて餘
 興に移り盛會裡に午後十時散會せり

◎三菱新舊出張所長晚餐會 協會員三菱商事會社青島出張所長交任披露宴は九月二十日午後六時半グラントホテルに於て開催協會員代表者及び市中主なる人を招かれデザートコースニ入るや舊出張所長濱氏起て新任東條吉之助氏を紹介し之に對して支那側丁敬臣氏及日本人側阪口新圃氏の答辭あり午後九時散會せり

◎三井新舊支店長晚餐會 協會員三井物產會社支店長交任披露宴は九月二十九日午後六時半グラントホテルに於て開催官民多數出席デザートコースニ入るや飯塚舊支店長及櫻井新支店長の挨拶に次ぎ由比軍司令官の謝辭あり午後九時盛會裡に散會せり

附屬運動部彙報

◎八阪カップ試合 九月十二日午後一時より旅順町コートに於て八阪カップ庭球試合舉行成績次の如し

一等 田口(吉澤) 二等 石黒(青新) 三等 西郷(泰和)

中島喜一郎(税關)

◎中村カップ試合 九月十九日午後一時より旅順町協會テニスコートに於て舉行成績左の如し

一等 西郷(泰和) 二等 入江(正金) 三等 高橋(湯淺)

鈴浦(湯淺)

◎太田優勝旗試合 九月二十六、七兩日に亘り第二回太田優勝旗試合を實業テニスコートに開催參加者山鐵庭球部、八幡俱樂部、實業庭球部の三團體にして廿六日午後一時山鐵對八幡試合に始まり八幡は最近發會式を擧げなる新團體にして新鋭富浦を加へ連日猛練習を續け必勝を期せしか山鐵軍亦斯界の猛者揃ひ

にして克く戦ひ八幡遂に恨を吞みて退く翌二十七日午前九時一敗八幡對實業の試合を開始す此日實業軍凡失多く八幡俱樂部をして名を爲さしめたるが午後一敗實業對一勝山鐵の試合に移りて實業益振はざりしも飯田楠出組の奮闘特に目醒ましく山鐵軍の三組を屠り續いて大將大山有吉組に肉迫して屢々危殆に陥入らしめたりされど力及ばず遂に最後の一點を獲られて惜しき敗れを採れり斯くして優勝旗は遂に山鐵庭球部の手に歸せり

◎太田優勝旗規定 脱稿に付九月十日印刷の上夫に關係方面に發送せり

◎松永徹治君 普通會員松永徹治君(三井)腦膜炎に冒かされ本月二十二日溘焉として逝かる氏は現に當野球部の外野手として鐵腕を振ひ前途を囑望せられしか今や空し哀悼の情に不堪

法 規

青島取引所長ハ取引所規程第六十二條ニ依り左ノ規程ヲ設定シタリ

大正九年九月二日

青島取引所長 入澤 重磨

錢鈔現物取引規程

第一條 錢鈔取引ノ物件ハ橫濱正金銀行青島支店ノ發行ニ係ル

鈔票トス

第二條 青島取引所長ニ於テ特ニ指定シタル期日ヲ履行期トス

ル賣買契約ヲ締結セムトスル者ハ所定ノ黑板ニ左ノ事項ヲ記載シタル後之ヲ所長ニ届出ツヘシ

一 賣買雙方ノ氏名、商號又ハ記號

二 賣買數量
三 賣買値段

第三條 現物取引ハ其ノ受渡期日ニ賣主ハ物件、買主ハ代金ヲ

青島取引所信託株式會社ニ提供シ受渡ヲ爲スヘシ

第四條 現物取引ノ賣買契約成立シタルトキハ賣買雙方ヨリ受

渡準備金ヲ青島取引所信託株式會社ニ提供スヘシ但シ賣買契

約成立ノ當日又ハ翌日受渡ヲ爲ス取引ニ付テハ此ノ限ニ在ラ

ス
前項ノ受渡準備金ノ額ハ取引人組合ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第五條 青島取引所信託株式會社ハ受渡事務ニ付相當ノ手数料

ヲ徵收スルコトヲ得

倫敦銀塊相場

(大正九年九月月中)

一日	五十八片四分三	十一日	同
二日	五十七片八分五	十二日	日曜
三日	五十八片二分二	十三日	五十九片
四日	五十九片	十四日	五十九片八分三
五日	日曜	十五日	六十片四分一
六日	六十片八分一	十六日	六十片四分三
七日	六十片八分三	十七日	六十片二分一
八日	五十九片二分一	十八日	六十片
九日	一	十九日	日曜
十日	五十八片二分一	二十日	五十九片二分一

寄贈書類

(大正九年九月到著の分)

○月	報	自第一一二三號	仁川商業會議所
○月	報	第一一九〇號	宇都宮商業會議所
○月	報	第四號	京都商業會議所
○月	報	第二八六號	橫濱商業會議所
○月	報	第五六號	京城商業會議所
○月	報	第一二五號	富山商業會議所
○月	報	第四九號	熊本商業會議所
○月	報	第八〇號	岐阜商業會議所
○月	報	第二號	東洋拓殖株式會社
○月	報	第三三六號	大日紡績聯合會
○月	報	第二卷 第九號	上海日本人同業組合
○月	報	大正八年十月	上海港貿易統計
○週	報	自第三〇〇六號	漢口商業會議所
○週	報	第三二一八號	日本棉花株式會社
○週	報	自第一四〇七號	天津商業會議所
○週	報	自第四四三號	上海日本商業會議所
○週	報	自第三四〇三號	株式會社山本商店
○週	報	自第二二〇九號	日本綿花週報社
○週	報	第一九八號	天津商業會議所
○時	報	自第九八八號	保險銀行時報社
○時	報	自第九九三號	山東經濟時報社
○時	報	第七卷 第九號	內外商工時報社
○時	報	自第四三號	民政部鐵道部

○時	報	第四〇號	平壤經濟時報社
○時	報	第五號	南滿洲鐵道株式會社
○時	報	第六卷 第七號	神戶商業會議所
○時	報	第一號	安東商業會議所
○上	海	自第三九三號 自第三九七號	春申社
○山東	論	自第一〇七號	山東公論社
○大	陸	第八卷 第九號	大連海務協會
○海	友	自第一二二號 至第一二四號	函館商業會議所
○所	報	第一七三號	青島商報社
○商	報	第三卷 第八號	民政部鐵道部埠頭事務所
○月	報	大正九年七月分	鐵工時報社
○時	報	第一〇號	日本セメント同業會
○會	報	第二五號	日華公報
○日	論	第八卷 第九號	貿易通報社
○通	報	八月號	大連商業會議所
○彙	報	大正九年九月號	北海道同業組合聯合會
○會	報	第四七號	北滿洲鐵道株式會社
○商	報	計大正六年	南滿洲鐵道株式會社
○調	報	第四號	青島守備軍司令部
○貿	報	大正八年(北支)	青島守備軍司令部
○貿	報	大正九年七月分	青島守備軍司令部
○調	報	第一一輯	大阪府立商品陳列館
○通	報	第四三號	青島測候所
○氣	報	大正七年	青島測候所
○業	報	大正九年二月分	民政部鐵道部
○經	報	大正九年二月分	東亞經濟調查局

○營業一班 大正九年七月編 南滿洲鐵道株式會社
○工業之日本 第十七卷第九號 工業之大日本社
○滿蒙之文化 第一卷 第一號 滿蒙文化協會
○黑龍江省 財政一班並現行稅則 南滿鐵總務部調查課
○Pacific ports Vol. 3, No. 5, 6. Frank Watt House & co.



品 目	建 物	單 位	本月ノ價格	前月ノ價格	比 較 增 減
麻	新 新 舊	大	一 枚	銀 330	銀 340 △ 10
		小	" "	" 310	" 320 △ 10
		大	" "	" 250	" 260 ○ 10
石	撫順 博山	塊 炭	一 噸	" 17,000	" 17,500 △ 500
		塊 炭	" "	" 13,500	" 13,000 ○ 500
		塊 炭	" "	" 12,500	" 12,000 ○ 500
鹽	溜原	塊 炭	" "	" 5,000	" 4,500 ○ 500
燐	雙三	喜	一 大 箱	" 41,000	" 45,000 △ 4,000
		星	" "	" 42,000	" 45,000 △ 3,000

品名		建	物	單	位	本月ノ價格		前月ノ價格		比較增減	
胡石煉瓦	粉材	普通花崗石平均才	石平均才	十	金	3,000	金	3,000	×	—	—
						460	銀	460	×		
						500	"	500	×		
						640	"	640	×		
						750	"	750	×		
						8,000	"	8,000	×		
						7,000	"	7,500	×		
						34,000	"	34,500	×		
						64,500	"	64,500	×		
						7,100	"	7,100	×		
木	材	手押煉瓦 (支那型)	一連	一	立方	7,000	"	7,000	×	—	—
						25,000	"	25,000	×		
						30,000	"	30,000	×		
						31,000	"	31,000	×		
						32,000	"	32,000	×		
						38,600	"	44,000	△		
						32,000	"	34,000	△		
						38,000	"	35,000	○		
						4,800	金	4,480	○		
						6,400	"	12,800	△		
馬薩牛人大白葱	齡芋	勞蔘根菜	一連	百	斤	9,400	"	11,200	△	—	—
						8,000	"	4,800	○		
						4,800	"	6,400	△		
						2,880	"	3,200	△		
						4,800	"	4,800	×		
						100	"	200	△		
						700	"	700	×		
						—	"	900			
						90	"	100	△		
						150,000	銀兩	153,000	△		
林梨夏蓮	蜜柑根	雙虎十六手	同	一	件	145,000	"	148,000	△	—	—
						150,000	"	154,000	△		
						158,000	"	161,000	△		
						157,000	"	160,000	△		
						160,000	"	167,000	△		
						145,000	"	148,000	△		
						150,000	"	154,000	△		
						158,000	"	161,000	△		
						157,000	"	160,000	△		
						160,000	"	167,000	△		
綿	絲	紅團龍丹鳳銀紅水	同	一	月	145,000	"	148,000	△	—	—
						150,000	"	154,000	△		
						158,000	"	161,000	△		
						157,000	"	160,000	△		
						160,000	"	167,000	△		
						145,000	"	148,000	△		
						150,000	"	154,000	△		
						158,000	"	161,000	△		
						157,000	"	160,000	△		
						160,000	"	167,000	△		

品名		建 物		單 位		本月ノ價格		前月ノ價格		比 較 增 減	
割	木	對 州 物 桎 木 內 地 物 桎 木	十 貫 一 杞 〃	金	1,600	金	1,600	×	—		
				〃	2,200	〃	2,200	×	—		
(支那品)											
上	海	米	百 五 十 斤 入 〃	銀	18,000	銀	19,000	△	1,000		
				〃	12,000	〃	17,500	△	5,500		
高	梁	三 等 品 滿 洲 一 等 品 滿 洲 二 等 品 同 三 等 品	百 斤 〃	〃	9,500	〃	16,800	△	7,300		
				〃	4,000	〃	3,900	○	100		
大	麥	〃	〃	〃	3,900	〃	3,800	○	100		
				〃	3,700	〃	3,650	○	50		
小	麥	〃	〃	〃	2,250	〃	2,850	△	600		
				〃	4,200	〃	4,000	○	200		
大	落	花	〃	〃	3,650	〃	4,400	△	750		
				〃	6,300	〃	6,550	△	250		
麥	粉	無 兵 船 一 等 品 同 二 等 品 同 三 等 品 一 鹿 鹿 鹿	一 袋 〃	〃	2,800	〃	2,800	×	—		
				〃	2,700	〃	2,700	×	—		
棉	花	〃	〃	〃	2,150	〃	2,150	×	—		
				〃	3,200	〃	3,000	○	200		
落	豆	油	〃	〃	2,800	〃	2,700	○	100		
				〃	2,700	〃	2,600	○	100		
豆	油	〃	〃	銀兩	25,500	銀兩	28,200	△	2,700		
				〃	13,800	銀	14,500	△	700		
羊	油	〃	〃	〃	12,200	〃	12,500	△	300		
				〃	3,300	〃	3,600	△	250		
牛	肉	上 中 下	一 百 磅 目 〃	金	340	金	300	○	40		
				〃	400	〃	400	×	—		
豚	鷄	肉 肉 卵	〃	〃	300	〃	300	×	—		
				〃	200	〃	200	×	—		
鷄	〃	〃	〃	〃	400	〃	400	×	—		
				〃	1,100	〃	1,100	×	—		
牛	皮	大 中 小 〃	千 個 〃	〃	18,000	〃	17,000	○	1,000		
				〃	20,500	銀兩	23,000	△	3,000		
牛	骨 油	〃	〃	〃	20,700	〃	20,500	○	200		
				〃	20,700	〃	20,600	○	100		
(建築材料)	石	灰	〃	銀	1,500	銀	2,300	△	800		
				〃	16,800	〃	16,800	×	—		
石	〃	〃	〃	〃	700	〃	700	×	—		

品名		建 物		單 位		本月ノ價格		前月ノ價格		比較 增 減	
木	材	同	正六分板	一	坪	金	4,000	金	4,200	△	200
		同	正一寸板	"	"	"	7,000	"	7,500	△	500
		同	一寸五分角	一	本	"	500	"	550	△	50
		同	二 寸 角	"	"	"	800	"	850	△	50
		同	二寸ノ三寸	"	"	"	1,200	"	1,200	×	—
		同	三 寸 角	"	"	"	1,800	"	1,900	△	100
		同	四 寸 角	"	"	"	3,200	"	3,500	△	300
		中横	三寸四分ノ五分	一	枚	"	400	"	480	△	80
		大横	三寸七分ノ七分	"	"	"	550	"	600	△	50
		木	摺	一	坪	"	1,800	"	1,800	×	—
		鹽地	柚 角	一	才	"	220	"	220	×	—
		栓	柚 角	"	"	"	220	"	220	×	—
		檜	柚 角	"	"	"	220	"	220	×	—
		清津紅松	柚 角	"	"	"	210	"	230	△	20
		北海松	角	"	"	"	140	"	150	△	10
(雜 貨)	綿	菊花	四十二手燃絲	一	俵	銀兩	1,260,000	銀兩	296,000	△	30,000
		美人	三十二手	"	"	"	230,000	"	260,000	△	30,000
		扇面	十六手	"	"	"	159,000	"	161,000	△	2,000
		福九	助龍	"	"	"	163,000	"	171,000	△	8,000
		九	龍	一	疋	"	6,500	"	6,300	○	200
		龍	C	"	"	"	6,400	"	6,200	○	200
		太鼓	天竺	"	"	"	3,300	"	3,300	×	—
		菊	天竺	"	"	"	2,900	"	2,900	×	—
		青	金勝勝	一	箱	銀	5,000	銀	5,100	△	100
		赤	金勝勝	"	"	"	5,000	"	5,000	×	—
		美美	孚虎帽	"	"	"	5,500	"	5,000	×	—
		亞細亞	僧帽	"	"	"	5,400	"	5,400	×	—
		亞細亞	福印	"	"	"	5,300	"	5,300	×	—
		幸星	印	"	"	"	5,300	"	5,400	△	100
		石	油	人	吉小丸	六	貫	金	3,950	金	3,950
同	角一丸			"	"	"	3,600	"	3,600	×	—
同	上角			"	"	"	3,400	"	3,400	×	—
同	丸淺			"	"	"	3,000	"	3,000	×	—
同	丸淺			"	"	"	2,800	"	2,600	○	200

名 品		建 物		單 位		本月ノ價格		前月ノ價格		比 較 増 減	
錫	}	劍	先	百	目	金	1,500	金	1,500	×	—
		二	番	"	"	"	800	"	800	×	—
鯉	節	上		"	"	"	1,700	"	1,500	○	200
		中		"	"	"	1,500	"	1,300	○	200
		下		"	"	"	1,300	"	1,100	○	200
		龜	印	"	"	"	1,200	"	1,200	×	—
罐 詰 類	}	松	茸	一	罐	"	750	"	750	×	—
		筍		"	"	"	550	"	550	×	—
		鯉		"	"	"	450	"	450	×	—
		赤	貝	"	"	"	450	"	450	×	—
		サ	ザ	エ	"	"	580	"	580	×	—
大小隱	元	豆		一	升	"	450	"	450	×	—
		豆		"	"	"	600	"	600	×	—
挽 割	麥	角	割	"	"	"	450	"	450	×	—
		花	割	"	"	"	450	"	450	×	—
櫻 譽 片	麥 麥 栗			"	"	"	380	"	380	×	—
				"	"	"	480	"	480	×	—
ラ	—	ト		一	袋	"	100	"	100	×	—
		ツ		三	磅 入	"	1,500	"	1,500	×	—
(建築材料)				"	"	"	1,500	"	1,500	×	—
丸	鐵	5/8"—3/4"		十	貫 枚	"	8,600	"	7,800	○	800
鐵	板	十 三 入 3'×6'		一	"	"	2,400	"	2,400	×	—
		五 入 二 厘 3'×6'		"	"	"	7,200	"	6,800	○	400
		平 板 #30—3'×6'		"	"	"	2,850	"	2,300	○	550
		同 上 #26—3'×6'		"	"	"	4,000	"	4,000	×	—
亞 鉛	板	浪 板 #30—3'×6'		"	"	"	2,500	"	2,400	○	100
		同 上 #26—3'×6'		"	"	"	3,800	"	3,700	○	100
		洋 釘	1—5平均	百 斤 入 一 樽	銀	14,800	銀	15,000	△	200	
阿 部	ペ イ ン ト	鑄色A	二十八磅入	一	樽	金	5,400	金	5,400	×	—
		白鉛	同	"	"	"	10,200	"	10,200	×	—
セ	メ	淺	野	"	"	"	15,000	"	15,000	×	—
		小	野	"	"	"	—	"	—	×	—
		唐	山	"	"	"	10,500	"	10,500	×	—
木	材	白松	並 四 分 板	一	坪	"	2,100	"	2,200	△	100
		二間	正 四 分 板	"	"	"	3,000	"	3,100	△	100

青島物價表 (大正九年八月末日)

(○印ハ増△印ハ減×印ハ保合)

品名	建物	單位	本月ノ價格	前月ノ價格	比較増減
白糯米	赤撰特印	一石	金 58,100	金 57,000	○ 1,100
	青撰特印	"	" 56,200	" 55,500	○ 1,200
	黑撰特印	"	" 55,000	" 54,500	○ 500
	一等撰特	"	" 60,000	" 60,000	× —
	二等撰特	"	" 58,000	" 58,000	× —
麥酒	キリシ	四打入一箱	" 22,560	" 22,560	× —
	アサヒ	"	" 22,000	" 22,000	× —
	サクラ	"	" 21,500	" 21,500	× —
	青島	"	" 23,000	" 23,000	× —
	サッポロ	"	" 22,000	" 22,000	× —
清飲料	白眞	四斗五升入一樽	" 79,000	" 79,000	× —
	東正	"	" 77,000	" 77,000	× —
	シトロ	"	" 65,000	" 65,000	× —
	三ツ矢	四打入一箱	" 13,000	" 13,000	× —
	サイダー	"	" 13,000	" 13,000	× —
茶	リボン	"	" 12,000	" 12,000	× —
	正喜撰	一斤	" 1,300	" 1,300	× —
	青柳	"	" 750	" 750	× —
	川柳	"	" 600	" 600	× —
	龜甲萬	一斗入一樽	" 9,500	" 10,000	△ 500
醬油	龜甲寶	"	" 8,800	" 9,000	△ 200
	白砂糖	一斤	" 380	" 380	× —
	中澤	"	" 370	" 370	× —
	梅白庵干	百目	" 200	" 150	○ 20
		"	" 300	" 250	○ 50
漬物類	奈樂干	"	" 550	" 550	× —
	苙京	"	" 200	" 180	○ 20
	干瓢	"	" 620	" 420	○ 200
	干椎	"	" 2,500	" 2,700	△ 200
	昆布	"	" 500	" 500	× —
乾物類	凍凍	"	" 250	" 250	× —
	豆莢	"	" 150	" 150	× —

青島屠獸場屠殺數

(八月中)

青島實業協會月報 第叁拾叁號

日	次	牛	豬	羊	山羊	計
一	日	236	2	35	2	275
二	日	28	1	62	3	94
三	日	50	—	115	2	167
四	日	23	1	32	3	59
六	日	235	2	26	3	266
七	日	15	1	33	1	50
八	日	29	—	29	3	61
九	日	12	1	32	3	48
十	日	14	1	31	2	48
十	一 日	25	—	62	4	91
十	三 日	17	—	36	—	53
十	四 日	15	—	35	3	53
十	五 日	13	1	36	1	51
十	六 日	222	1	36	1	260
十	七 日	33	—	34	2	69
十二	八 日	41	1	62	3	107
廿	十 日	34	0	34	1	69
廿	十一 日	33	1	36	2	72
廿	十二 日	36	1	85	1	123
廿	十四 日	151	1	168	2	322
廿	五 日	44	1	148	4	197
廿	七 日	7	1	27	—	35
廿	八 日	11	1	29	8	49
廿	九 日	22	1	25	1	49
三	十 日	44	1	29	—	74
合	計	1,390	20	1,277	55	2,742
昨	年 七 月 中	3,224	10	77.5	227	4,237

出 港 乘 船 ノ 部

國 籍	男 女 別	大 連	大 神 戸	門 其 ノ 司 他	朝 鮮	上 海	牛 莊	香 港	浦 鹽	石 臼 所	海 州	山 東 省	江 蘇 省	福 建 省	關 東 州	計
日 本 人	男	315	205	728	15	37	—	—	—	—	6	—	—	—	—	1,306
	女	95	102	310	5	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	520
支 那 人	"	2,228	23	24	95	146	33	28	—	242	175	514	231	103	97	3,944
	"	239	—	—	8	22	7	6	—	5	—	103	85	66	20	561
英 國 人	"	1	—	1	—	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21
	"	1	—	—	—	18	—	2	—	—	—	—	—	—	—	21
露 國 人	"	43	1	2	—	11	—	—	3	—	—	—	—	—	—	60
	"	29	1	2	—	13	—	—	3	—	—	—	—	—	—	48
米 國 人	"	4	1	—	—	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29
	"	3	—	—	—	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19
獨 逸 人	"	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	"	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
佛 國 人	"	—	—	1	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
	"	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
瑞 典 人	"	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	"	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
ア ウ リ ス ヤ 人	"	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
波 蘭 人	"	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
丁 抹 人	"	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	"	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
波 斯 人	"	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
希 臘 人	"	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
葡 萄 牙 人	"	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	"	—	—	—	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9
合 計	男	2,591	233	756	119	253	33	28	3	242	181	514	231	108	97	5,377
	女	369	103	312	13	91	7	8	3	5	—	103	85	66	20	1,185
	計	2,960	333	1,065	123	344	40	36	6	247	181	617	316	174	117	6,562

品目	發著	青島驛		大港驛		埠頭荷扱所		計
		一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	
牛	發著	3,328	—	—	—	—	—	—
合	計	12,602.2 2,754.9	574.9 248.0	2,288.2 1,701.4	— 8.6	2,347.0 10,844.1	16.8 0.2	17,829.1 15,557.2

青島港出入船舶旅客 (大正九年八月中)

●印ハ帆船出入旅客ヲ示ス

入港上陸ノ部

國籍	男女別	大連	大神戸	門司 其他	朝鮮	上海	芝罘	天津	安東縣	石臼所	海州	山東省	江蘇省	福建省	關東州	計
日本人	男女	512 199	313 187	597 320	17 5	55 11	3 —	1 —	3 1	— —	6 —	— —	— —	— —	— —	1,507 723
支那人	"	4,518 362	44 —	26 —	131 8	105 18	459 61	— —	1,084 91	210 27	168 10	728 302	456 105	300 99	201 20	8,430 1,103
英國人	"	3 6	— —	— —	— —	20 19	1 —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	25 25
露國人	"	34 37	1 1	— —	— —	20 17	6 7	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	61 62
米國人	"	3 10	— —	— —	— —	24 11	5 7	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	33 28
佛國人	"	— —	— —	— —	— —	3 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 1
和蘭人	"	— —	— —	— —	— —	2 2	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	2 2
獨逸人	"	— —	3 3	1 —	— —	3 —	— —	— —	— —	1 —	1 —	— —	— —	— —	— —	9 3
瑞典人	"	— —	— —	— —	— —	3 —	— 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 1
波蘭人	"	2 —	— —	— —	— —	1 2	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 2
伊太利人	"	— —	— —	— —	— —	2 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	2 —
葡萄牙人	"	— —	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 1
丁抹人	"	— —	— —	— —	— —	2 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	2 —
希臘人	"	2 2	— —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 2
合	男女計	5,074 616 5,690	361 191 552	624 320 944	148 13 161	242 82 324	474 76 550	3 — 3	1,087 92 1,179	211 27 238	175 19 185	728 302 1,030	456 105 561	300 99 399	231 20 221	10,984 1,953 12,937

品目	發著	青島驛		大港驛		埠頭荷扱所		計
		一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	
葉煙草	發著	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	27.7	1.3	485.7	—	514.7
茶	"	120.5	2.4	—	—	9.8	—	132.7
	"	0.5	0.3	—	—	—	—	0.8
豚毛	"	4.0	0.6	—	—	—	—	4.6
	"	55.0	1.2	—	—	—	—	56.2
羊毛	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	5.2	0.1	—	—	12.1	—	17.4
獸骨	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
牛皮	"	—	0.6	—	—	—	—	0.6
	"	15.9	0.3	—	—	—	—	16.2
豚皮	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	21.2	0.6	—	—	—	—	21.8
魚類	"	172.4	16.6	9.8	—	—	—	198.8
	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
昆布其ノ他海草	"	15.1	0.3	—	—	—	—	15.4
	"	—	—	—	—	—	—	—
簾	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
木粉	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
雜貨(表中記載ノモノヲ除ク)	"	638.3	7.6	1.9	—	—	—	647.8
	"	19.1	3.2	—	0.1	—	—	22.4
燐寸	"	89.1	9.7	173.7	—	25.0	—	297.5
	"	—	—	—	—	—	—	—
燐寸材料	"	—	—	14.9	—	160.2	—	175.1
	"	—	—	5.0	—	—	—	5.0
火藥類	"	5.0	—	—	—	—	—	5.0
	"	—	—	—	—	—	—	—
銅貨	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	24.8	37.1	—	0.3	—	—	62.2
青銅錢	"	—	0.2	—	—	—	—	0.2
	"	—	0.2	—	—	—	—	0.2
銅	"	5.0	3.3	—	—	—	—	8.3
	"	—	0.5	—	—	—	—	0.5
家具	"	—	7.8	—	—	15.5	0.9	24.2
	"	5.6	1.4	—	0.8	—	—	7.8
麻袋及布袋	"	154.5	18.4	—	—	119.3	1.8	294.0
	"	4.0	64.7	5.2	—	—	—	73.9
其ノ他	"	49.0	32.1	30.6	—	173.6	8.9	294.2
	"	83.3	17.1	252.5	2.1	427.3	—	782.3
豚	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
羊	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
騾及驢馬	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	26.7	—	—	—	—	—	26.7
馬	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—

品 目	發 著	青 島 驛		大 港 驛		埠 頭 荷 扱 所		計
		一 車 扱	小 口 扱	一 車 扱	小 口 扱	一 車 扱	小 口 扱	
石 油	發 著	—	0.1	716.7	—	386.3	—	1,103.0
落 花 生 油	"	—	—	14.8	—	—	—	14.9
豆 油	"	6.9	—	128.9	—	29.5	—	165.3
牛 油	"	103.7	1.2	0.4	—	—	—	0.4
	"	—	—	44.6	—	—	—	149.5
油 類 (表中記載ノモノヲ除ク)	"	1.5	3.3	—	—	37.4	1.2	43.4
	"	7.1	5.2	—	—	—	—	12.3
油 類	"	33.1	—	—	—	60.0	—	93.1
肥 料 各 種	"	79.8	0.6	81.2	—	—	—	161.6
麥 稈 眞 田	"	—	0.3	—	—	—	—	0.3
	"	44.8	1.3	—	—	—	—	46.1
安 平	"	—	0.2	—	—	—	—	0.2
	"	72.0	—	—	—	—	—	72.0
菓 及 粟 稈	"	27.0	—	—	—	—	—	27.0
鹽	"	—	1.3	0.6	—	—	—	1.9
砂 糖	"	476.2	5.6	14.9	—	29.9	—	526.6
日 本 酒	"	—	9.8	0.8	—	—	—	10.6
	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
ビ ー ル	"	—	10.8	—	—	—	—	10.8
支 那 酒	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
	"	—	1.1	—	—	—	—	1.1
食 料 品 (表中記載ノモノヲ除ク)	"	21.6	28.6	5.1	—	—	—	55.3
	"	2.6	2.7	—	0.2	—	—	5.5
乾 物	"	60.1	3.0	—	—	—	—	63.1
	"	—	2.5	—	—	—	—	2.5
野 菜	"	46.4	5.0	—	—	—	—	51.4
	"	0.4	2.0	—	—	—	—	2.4
鷄 卵	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	6.1	71.1	2.8	1.1	—	—	81.1
藍	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
染 塗 料	"	66.2	22.1	0.2	—	—	0.8	89.3
	"	53.8	0.3	—	0.1	72.4	—	96.6
藥 品 及 藥 材	"	4.1	14.8	1.8	—	149.5	0.8	171.0
	"	0.1	1.0	—	—	—	—	1.1
曹 達	"	6.2	0.5	—	—	—	—	6.7
	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
石 鹼	"	—	30.9	—	—	19.0	—	49.9
	"	—	1.1	—	—	—	—	1.1
煙 草	"	51.5	60.0	—	—	146.6	—	258.1
	"	—	1.0	—	—	—	—	1.0

品目	發著	青島驛		大港驛		埠頭荷扱所		計
		一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	
高粱	發著	485.5 3.3	— 0.3	36.4 —	—	—	—	521.9 3.6
小米	麥	6,203.6 —	—	663.9 —	—	—	—	6,867.5 —
穀類 (表中記載ノモノヲ除ク)	"	13.2 46.4	12.1 3.6	0.5 24.8	—	—	—	25.8 74.8
	"	1,631.7 —	0.2 0.2	85.5 13.2	—	—	—	1,717.4 13.4
落花生	"	—	—	—	—	—	—	—
麥粉	"	30.0 17.7 2.9	— 1.0 3.8	163.8 — 89.9	—	581.2 —	—	778.0 18.7 96.6
陶磁器及土器	"	—	1.4	—	—	—	—	1.4
	"	128.6	0.1	—	0.3	—	—	129.0
支那紙	"	218.0 —	2.6 4.8	7.9 —	—	—	—	228.5 4.8
紙 (支那紙ヲ除ク)	"	—	1.1	—	—	—	0.5	1.6
	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
麻	"	—	0.6	—	—	—	—	0.6
	"	1.2	0.1	—	0.5	—	—	1.8
綿	"	—	0.5	—	—	255.0	—	255.5
	"	28.5	0.1	72.0	—	146.6	—	247.2
綿布	"	271.5 —	29.2 2.6	14.1 —	—	44.6 —	—	359.4 2.6
綿絲	"	749.7 1.1	186.4 —	3.2 388.8	—	—	—	939.3 389.9
綿製品	"	—	2.7	—	—	—	0.6	3.3
	"	—	3.0	—	—	0.8	—	3.8
絹絲 (屑ヲ含ム)	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	25.1	2.1	—	—	—	—	27.2
絹布類	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
	"	5.1	3.7	—	—	28.1	—	36.9
繭 (屑繭ヲ含ム)	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	6.0	—	5.8	—	21.4	—	23.2
棗	"	—	—	—	—	—	—	—
梨	"	—	—	—	—	—	—	—
乾柿	"	—	—	—	—	—	—	—
胡桃	"	—	—	—	—	—	—	—
蜜柑	"	—	0.3	—	—	—	—	0.3
瓜及西瓜	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	209.4	1.6	86.8	0.1	—	—	297.9
瓜子	"	—	—	—	—	—	—	—
果實 (表中記載ノモノヲ除ク)	"	—	0.2	—	—	—	—	0.2
	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1

品 目	單 位	上 海	芝 罘	大 連	其 他	合 計
砂 糖 (赤)	"	—	—	—	—	—
同 (白)	"	—	—	—	—	—
茶	"	3,446	—	—	—	3,446
煙 草 刻 ミ	"	24	—	—	—	24
木 製 品	"	97	—	2	2	101

青島三驛發著貨物主要品 (大正九年八月中)

(單位噸以下一位噸類ハ頭數ヲ示ス)

品 目	發 著	青 島 驛		大 港 驛		埠 頭 荷 扱 所		計
		一 車 扱	小 口 扱	一 車 扱	小 口 扱	一 車 扱	小 口 扱	
石 炭 {	發 著	45.0	—	—	—	45.0	—	90.0
	"	930.0	0.2	30.0	0.3	8,230.0	0.2	9,190.7
コ - ク ス {	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	150.0	—	30.0	0.1	60.0	—	240.1
石 灰 {	"	3.8	—	—	—	—	—	3.8
	"	430.0	—	—	—	144.0	—	564.0
煉 瓦 (瓦ヲ含ム) {	"	0.2	0.1	—	—	—	—	0.3
	"	—	—	—	—	45.0	—	45.0
セ メ ン ト {	"	18.2	4.9	0.6	—	40.5	—	64.2
	"	—	—	210.0	—	555.0	—	765.0
硝 子 板 {	"	12.3	2.0	—	—	—	—	14.3
	"	—	—	—	—	—	—	—
硝 子 製 品 {	"	—	0.6	—	—	—	—	0.6
	"	30.8	0.4	4.0	0.3	—	—	35.5
桐 {	"	—	—	—	—	—	0.2	0.2
	"	—	—	72.3	—	—	—	72.3
木 材 (板ヲ含ム) {	"	67.1	15.4	332.5	—	334.8	—	799.8
	"	100.3	0.4	0.5	—	—	—	101.2
竹 及 割 竹 {	"	—	0.3	—	—	9.9	—	10.2
	"	—	0.5	—	—	—	—	0.5
石 白 {	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
石 材 及 同 製 品 {	"	105.0	—	2.9	—	—	—	107.9
	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
鐵 板 鐵 製 品 {	"	35.6	15.6	1.9	—	18.7	1.1	72.9
	"	11.7	1.9	14.0	0.9	5.0	—	33.5
鐵 鍋 {	"	—	0.3	—	—	—	—	0.3
	"	70.4	—	—	—	—	—	70.4
古 鐵 {	"	192.4	0.6	—	—	—	—	193.0
	"	—	—	—	0.1	—	—	0.1
大 豆 {	"	63.5	—	36.2	—	266.4	—	369.1
	"	12.7	—	—	—	—	—	12.7
豆 類 (大豆ヲ除ク) {	"	365.6	0.5	—	—	—	—	366.1
	"	12.3	0.4	—	—	—	—	12.7

輸入支那品仕出地別 (大正九年八月中)

品 目	單位	上 海	芝 罘	大 連	其 ノ 他	合 計
(綿 製 品 類)						
シーチング(上海)	疋	13,260	—	—	—	13,260
雲 齊 布(同)	"	1,010	—	—	—	1,010
土 布	担	36	—	—	—	36
花 色 土 布	"	5	—	—	—	5
綿 織 絲	"	77	—	—	—	77
(雜 貨)						
砒 石	"	666	—	—	78	744
竹 蓆	箇担	4,200	—	—	—	4,200
竹 筍	"	15	—	—	—	15
筍 書	"	10	—	—	—	10
書 籍	"	29	—	—	—	29
蠟 燭	"	—	—	2	—	2
米 磁	"	3,147	—	2,069	—	5,216
磁 石	"	9	—	1	—	10
紙 卷 煙 草	"	1,702	—	201	—	1,903
石 炭(撫順開平)	噸	—	—	150	—	150
紙 扇	箇担	—	—	—	—	—
小 麥 粉 機 械 製	"	—	—	—	—	—
夏 布 粗 製	"	1	—	—	—	1
同 精 製	"	—	—	—	—	—
藥 油	"	70	—	—	26	96
桐 油	"	973	—	—	—	973
紙 一 等 品	"	114	—	—	—	116
同 二 等 品	"	3,942	—	—	285	4,227
同 錫 箔 他	"	511	—	—	248	759
同 其 ノ	"	21	—	—	—	21
糖 菓	"	320	—	—	—	320
三 蔡 酒	"	22	—	—	—	22
靴 綿 及 絹 製 白 黃	双担	950	—	—	—	950
生 同	"	—	—	—	—	—
同 精 品	斤担	250	—	192	—	442
石 鹼 條 形 田	"	201	—	2	—	203
麥 稈 眞	"	101	—	28	—	129

品 目			單 位	日 本	英 國	米 國	香 港	其ノ他	大 連	上 海	其ノ他	合 計
果 物	鮮 品	子 花	担	46	—	—	—	4	—	3,988	—	4,038
落 同 頭	生 仁 髮	花	担	86	—	—	—	—	—	37	102	139
				106	—	—	—	—	—	—	—	86
				—	—	—	—	—	—	7,595	38,521	46,222
				—	—	—	—	—	—	134	—	134
麥 藥 豆 落 梨	藁 帽 子	油 生 油	個 担	—	—	—	52	—	56	—	—	108
				—	—	—	—	—	—	292	—	292
				3,980	—	—	1,978	—	—	3,569	—	9,527
				—	—	—	—	—	—	123	—	123
鹽 鹽 杏 瓜 胡	豚 仁 子 麻		個 担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				223,400	—	—	64,848	—	—	—	—	288,248
				—	—	—	86	—	—	30	—	116
				—	—	—	227	—	—	—	—	227
				—	—	—	—	—	—	—	—	—
生 絲 同 同 同 同	白 白 白 黃 黃	座 再 機 座 再	操 操 械 操 操	—	—	—	—	—	—	75	—	75
				—	—	—	—	—	—	9	—	9
				—	—	—	—	—	—	826	—	826
				—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 同 同 同	黃 機 絲 繭	械 絲 繭 品 紬	—	—	—	—	—	—	—	294	—	294
				21	—	—	—	—	—	516	—	537
				—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 同 同 同	絲 製 綢	生 山	—	1	—	—	4	—	—	—	—	5
				16	—	—	76	—	25	—	3	120
犬 生 生 麥 同 同 同	牛 羊 田 班 白	皮 皮 色 色 色	枚 担 枚 担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				1,142	—	—	—	—	—	—	—	1,142
				—	—	—	—	—	—	—	—	—
				—	—	—	—	—	—	136	—	136
				—	—	—	48	—	—	170	—	218
				1,321	—	—	—	—	448	—	—	1,769
				—	—	—	—	—	—	—	—	—
				4	—	—	—	—	—	—	—	4
				—	—	—	—	4	—	—	—	4
羊	米	毛	—	—	—	—	—	—	—	262	—	262
				—	—	—	—	—	—	—	—	—

品目	單位	日本	英國	米國	香港	其ノ他	上海	大連	其ノ他	合計
胡椒	担	—	—	—	67	—	—	—	—	67
米	担	1,868	—	—	—	—	—	—	—	1,868
昆布	担	739	—	—	108	—	—	—	—	847
日本酒	担	601	—	—	—	—	—	—	—	601
石鹼條	担	1,083	—	—	—	—	6	170	—	1,259
同化粧用海關兩	担	804	—	—	—	—	1,320	473	—	2,597
同曹醬	担	75	—	—	—	—	274	1	—	350
同糖	担	190	—	—	—	—	—	82	—	272
砂糖(赤)	担	—	—	—	4,572	—	—	—	—	4,572
同(白)	担	—	—	—	1,656	—	—	104	—	1,760
同精製	担	—	—	—	1,177	—	3	—	—	1,180
同冰	担	—	—	—	24	—	—	10	—	34
同木材(堅)	立方呎	91,985	—	—	—	—	—	—	—	91,985
同(軟)	担	1,705,345	—	—	—	—	—	43,805	—	1,749,150

輸出支那品仕向地別 (大正九年八月中)

品目	單位	日本	露國	英國	香港	其ノ他	大連	上海	其ノ他	合計
生豆	担	2,132	—	—	—	—	195	—	—	2,327
黃牛	担	5	—	—	—	—	—	—	—	5
牛骨	担	339	—	—	—	2,958	8	12	—	3,314
銅豚	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿毛	担	109	—	—	—	—	—	461	—	570
鹿炭	噸	51	—	—	45	4,956	40	10,505	—	15,597
山花	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
錫黑蛋	担	—	—	—	176	—	—	11	28	215
蛋乾	担	—	—	—	58	—	—	—	—	58
白黃蛋	担	—	—	—	—	—	—	618	—	618
蛋乾	担	225	—	—	—	—	—	—	—	225
雞卵	個	3,249,100	—	—	—	—	—	—	—	3,249,100
麻鹽	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
魚	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—

品 目	單位	日 本	露 國	英 國	香 港	其ノ他	上 海	大 連	其ノ他	合 計
綿 帶	担	3	—	—	—	—	—	3	—	6
パ タ ー	〃	7	—	—	—	—	11	—	—	18
銅 鈕 釦 花 鈕 釦	哥	894	—	—	—	—	—	—	—	894
蠟 燭	担	2	—	—	—	—	404	—	—	406
ヒ メ ン ト	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日本品)	〃	28	—	—	—	—	—	—	—	28
磁 石 瓦 器	海關兩	2,003	—	—	—	—	82	554	—	2,649
紙 卷 煙 草	千 本	—	—	—	—	—	19,230	—	—	19,230
同 (日本品)	〃	—	—	—	—	—	—	30	—	30
掛 置 時 計	個	173	—	—	—	—	36	—	—	209
石 炭	噸	1,610	—	—	—	—	—	—	—	1,610
(染料顏料塗料)										
ア = リ ン	海關兩	1,164	—	—	—	—	5,459	50	—	6,673
人 造 藍	担	—	—	—	—	—	1,808	—	—	1,808
天 然 藍 液 狀	〃	—	—	—	135	—	—	—	—	135
白 鉛 粉	〃	—	—	—	80	—	10	—	—	90
ロ ン グ フ ァ ー	〃	—	—	—	—	—	20	—	—	20
越 幾 斯 料	海關兩	3,005	—	3,163	—	—	443	—	—	6,611
電 氣 材										
砵 郡 洗 面 器	打	10	—	—	—	—	—	—	—	10
麥 粉	担	62	—	—	—	—	20	—	—	82
窓 硝 子	箱	30	—	—	—	—	7	2	—	39
洋 燈 及 洋 燈 器	海關兩	1,339	—	—	—	—	2,473	—	—	3,812
燐 寸 (黃 燐)	哥	76,000	—	—	—	—	—	50,783	—	126,783
同 (安 全)	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
疊 及 莫 座	枚	8,375	—	—	3,000	—	2,300	—	—	13,675
コンデンスミルク	打	—	—	—	—	—	33	—	—	33
針	千 本	1,000	—	—	—	—	—	—	—	1,000
石 油 (米品箱入)	ガロン	—	—	19,490	—	—	—	—	—	19,490
同 (裸)	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (露國箱入)	〃	—	—	—	3,000	—	—	—	—	—
同 (裸)	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ス マ ト ラ (裸)	〃	—	—	—	—	—	217,255	—	—	217,255
同 (箱入)	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日本箱入)	〃	10,000	—	—	—	—	—	—	—	10,000
同 (裸)	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
紙	担	398	—	—	23	—	156	21	—	598

品 目	單位	日 本	英 國	米 國	香 港	其ノ他	上 海	大 連	其ノ他	合 計
手 巾	打	250	—	—	—	—	303	—	—	553
タ オ ル	打	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日本品)	"	2	—	—	—	—	—	—	—	2
綿織絲 (印 度)	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日 本)	"	11,691	—	—	—	—	—	—	—	11,691
綿縫絲 (絲 卷)	哥	166	—	—	—	—	40	—	—	206
(毛綿交織類)										
ユニオン及ボンチ	碼	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヨークローズ										
(毛製品類)										
綾 吳 呂	疋	—	—	—	—	—	—	—	—	—
羅 世 伊 多	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伯林ウール及毛絲	担	—	—	—	—	—	6	—	—	6
(雜質織物類)										
絹製品交織	斤	891	—	—	—	—	309	10	—	1,210
(金屬品)										
片	担	47	—	—	—	—	—	—	—	47
線	"	8	—	—	—	—	—	—	—	8
銅 板	"	2	—	—	—	—	—	—	—	2
鐵及軟鐵 (新)										
條	"	1,074	—	—	—	—	445	—	47	1,566
屑鐵及屑鐵線	"	—	—	—	136	—	617	—	—	753
箍	"	2	—	—	—	—	137	—	—	139
橡	"	190	—	—	—	—	—	—	—	190
釘 用 竿 鐵	"	1	—	—	—	—	—	—	—	1
ネール(ワイヤー)	"	318	—	—	—	—	13	10	—	341
片 及 板	"	156	—	—	—	—	12	—	—	168
線	"	19	—	—	73	—	2	—	—	94
鐵及軟鐵(古)	"	1,410	—	—	3,437	—	702	—	—	5,549
鍍金鐵片	"	141	—	—	—	—	169	—	—	310
鉛 塊	"	1	—	—	77	—	42	—	—	120
鋼	鐵	—	—	—	—	—	220	—	—	220
藥	鐵	—	—	—	—	—	—	—	—	—
白銅片及線	枚	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(雜 貨)										
麻 袋	担	476	—	—	3,372	—	345	—	—	4,193
麥 酒	"	484	—	—	—	—	52	80	—	616

青島輸出入貿易 (大正九年八月中)

—膠海關貿易統計—

輸入外國品仕出地別

品 目	單位	日 本	英 國	米 國	香 港	其ノ他	上 海	大 連	其ノ他	合 計
精製阿片 (綿製品類)	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
生金巾	疋	4,630	—	—	—	—	5,225	300	—	10,155
シーチング(米品)	"	—	—	—	—	—	1,160	—	—	1,160
同 (英品)	"	—	—	—	—	—	220	—	—	220
同 (日本品)	"	8,580	—	—	—	—	—	2,280	800	11,660
晒金巾	"	1,350	—	—	—	—	1,441	—	—	2,791
綾金巾	"	—	—	—	—	—	28	—	—	28
雲齋布(米品)	"	—	—	—	—	—	30	—	—	30
同 (英品)	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日本品)	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
シェーン(米品)	"	—	—	—	—	—	360	—	—	360
同 (和蘭品)	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (英品)	"	—	—	—	—	—	3,250	—	—	3,250
同 (日本品)	"	3,286	—	—	—	—	—	2,040	—	5,326
天竺布三十二吋	"	—	—	—	—	—	2,730	—	—	2,730
同 (日本品)	"	8,970	—	—	—	—	280	800	—	9,950
寒冷紗及綿紗	"	—	—	—	—	—	210	—	—	210
平織捺線染色各種	"	900	—	—	—	—	960	180	—	2,040
チンズ及平織更紗	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
プリントド フローネチュロー	"	—	—	—	—	—	61	—	—	61
捺線綿襪子	"	—	—	—	—	—	1	—	—	1
捺線天竺布	"	—	—	—	—	—	3,262	—	—	2,262
コットンイタリア ン及ラッスینگ	"	9,776	—	—	—	—	9,072	124	—	18,972
イーゾドブラック	"	—	—	—	—	—	2,505	—	—	2,505
同平織染色	"	200	—	—	—	—	268	—	—	468
同 綾	"	—	—	—	—	—	392	—	—	392
緋金巾及綿天竺布	"	600	—	—	—	—	1,935	300	—	2,835
綿スパニッシュ イブ六十四吋	担	—	—	—	—	—	180	—	—	180
綿フランネル	"	140	—	—	—	—	214	—	—	354
同 フランケット	"	24	—	—	—	—	—	—	—	24

(定不序順)

青島實業協會會員

大正九年十月現在

會 員		代 表 者		所 在	
岩城商會支店	伊藤忠商事株式會社青島支店	田邊郁太郎	早舟町	山東葉煙草株式會社	伊東經真
原田汽船株式會社青島支店	川畑竹馬	所澤町	江商株式會社青島支店	一宮晃	所澤町
日本郵船株式會社青島出張事務所	近澤武男	所澤町	安部幸兵衛商店青島出張店	副島高市	所澤町
日本綿花株式會社青島支店	鶴原梅次郎	北京町	湯淺貿易株式會社青島出張所	小林乃	所澤町
東和公司青島支店	河原熊太郎	北京町	三井物產株式會社青島支店	櫻井信四郎	所澤町
東亞煙草株式會社青島販賣所	西村義郎	北京町	峯村	大塚彌	葉櫻町
朝鮮銀行青島支店	讚井源輔	所澤町	合名會社鈴木商店青島出張所	金子慶治	吳淞町
大倉商事株式會社青島出張所	石橋藤次郎	早舟町	中村組青島支店	原辰治	吳淞町
橫濱正金銀行青島支店	野原大輔	所澤町	東洋鹽業株式會社青島支店	貝原收藏	大和町
大連汽船株式會社青島出張所	松本文三郎	葉櫻町	山東興業株式會社	松崎翠	早霧町
大日本麥酒株式會社青島出張所	三宅重孝	臺東鎮長通市外四方庄	青島製粉株式會社支店	空閑知鷺治	早霧町
內外綿株式會社青島出張所	佐々木國藏	北京町	新利洋行出張所	吉澤干城	市場通
三菱商事株式會社青島出張所	山田三平	市場通	福昌公司青島出張所	古賀茂登吉	野山町
神戶棧橋株式會社青島派出所	東條吉之助	早舟町	南昌洋行青島出張所	村井與市	若葉町
山東運輸株式會社青島支店	鹽谷治太郎	葉櫻町	內外貿易株式會社青島出張所	中村道三	葉櫻町
日華協信公司青島支店	神谷武松	北京町	大連製氷株式會社青島支店	湯川夏生	早霧町
青島絲廠	藤波茂時	北京町	龍口銀行青島支店	倉脇武治	三日月町
山東化學工業所	鈴木格三郎	工場地	東省實業株式會社青島支店	原田昇	保定町
青島鹽業株式會社	磯野清平	工場地	濱口商事株式會社青島出張所	田子金吾	若葉町
東洋殖產株式會社青島支店	三好光三郎	濟南町	長瀨洋行青島出張所	榎本勝吉	大黑町
東洋製油株式會社青島支店	針貝金次郎	若鶴町	青島銀	橋文助	伏波町
大星公司青島支店	田中穆	堺町	山東窯業株式會社	石井久次	市場通
久原商事株式會社青島出張所	遠藤要	早霧町	大日本紡績株式會社	中村康之助	所澤町
青島取引所信託株式會社	佐久間長吉郎	靜岡町	田中畜事株式會社	村地卓爾	久留米町
	峰村正三		大阪商船株式會社	倉田敬三	筑後町
			正隆銀行支店	空閑知鷺治	早舟町
				川原井左司馬	早舟町
				松本正平	大黑町

大正九年十月二十日發行

大正七年八月十九日第三種郵便物認可（毎月一回二十日發行）

發行兼編輯者
發行所
印刷所
印刷人

青島靜岡町十番地	吉見正任
青島靜岡町十番地	青島實業協會
青島靜岡町十四番地	青島新報社
青島靜岡町十四番地	足立孝

(實費銀參拾錢)